

雁ヶ渡嶺山からの富士山

松浦 隆康

ズバリ出します、総決算価格!

# 総決算

00 BOX本業と手に一度の運送にも有難い贈り物。人気のウェア、シューズで遊んで楽しむ。お礼の気持ちも込めて、この機会に是非お買い上げください。

2/22日まで



本格的00ウェアブランドの超お買得アイテム、冬を楽しむスグレモノのギアがぞろぞろ! 残り少ないモデルもありますので、お早め!

★山登りの時と休みの時、両方使える  
コロムビア、ノールアース、アディダス、  
Fox Fire、ジャンクウェア  
総決算価格 ¥9,800~



★冬のアウトドアで活躍、タウンシフト  
ノールアース、マーモット、モンベル  
総決算価格  
¥10,000~

★軽量・コンパクトに使えるアウトドアジャケット  
ノールアース、マーモット、Fox Fire、コロムビア、  
ローアルバイン、アディダス  
総決算価格 ¥6,800~

★秋冬、さらさらとした肌触りの、ハイテク素材のランニングシューズ  
シニラテサイレン、ノールアース  
総決算価格 ¥17,800~

★アウトドアでも活躍、タウンシフト、通勤・通学に  
少くも、コロムビア、ノールアース、Fox Fire、モンベル  
総決算価格 ¥5,800~

★冬、さらさらとした肌触りの、ハイテク素材のランニングシューズ  
ノールアース、アディダス、Fox Fire、マーモット、コロムビア  
¥7,900~

★インナーのフリースが取り外しできる Gore-Tex 素材  
のジャケット、Wings Jacket  
ノールアース、Fox Fire、クラスブルバ  
総決算価格 ¥34,000~



★冬の登山に活躍、ランニングシューズ  
SOREL、ソリフー  
→総決算価格

★アウトドアでも活躍、タウンシフト、通勤・通学に  
adidas EO アルカ Lo ¥13,900  
→総決算価格  
adidas EO アルカ Mid ¥16,000  
→総決算価格



★軽量コンパクト、アウトドア・通勤・通学に  
ASOLO SUPER SCOUT-GORE-TEX  
ズバリ ¥9,800  
T社 レンジャー-GORE-TEX アウトドア  
ズバリ ¥9,800

★軽量コンパクト、アウトドア・通勤・通学に  
Reignier MV59、MV49、MV52、レインシューズ  
総決算価格

★登山に活躍、ランニングシューズ  
MOUNTAIN SMITH TRANSIT BOARD プラス ¥33,000  
→総決算価格



★登山に活躍、ランニングシューズ  
KARRIMOR MIRAGE 35 リトル ¥8,800 →総決算価格

★アウトドアでも活躍、タウンシフト、通勤・通学に  
ノールアース、Fox Fire、クラスブルバ  
ズバリ ¥4,900

などなど、このほかにも、この期間から出来るお買得総決算ウェア、ギアがいっぱい! 店頭でも承っております、お気軽にお買い合わせ下さい。



大阪店  
〒545-0051 大阪市西区南堀江1-10-3  
TEL.06-6551-1033 FAX.06-6551-1034  
日-夜 10:00-20:00 休 日



名古屋店  
〒460-0007 名古屋市中区栄1-1-1  
TEL.052-951-4141 FAX.052-951-4040  
日-夜 10:00-20:00 休 日

便利な名古屋の中心・栄  
近小笠原ビル、電車でおいでになる場合、地下鉄栄13駅が  
便利、栄駅下車、東口改札出て  
中ビル方面へ50m歩くと  
名古屋店  
〒460-0007 名古屋市中区栄1-1-1  
TEL.052-951-4141 FAX.052-951-4040



インターネットで商品検索やイベント情報の提供を行っています。ご利用下さい。  
ホームページアドレス <https://plaza20.mbn.or.jp/~odbox>



白壁と桜 (長谷寺)

春を彩るものはさくらの花  
 山櫻 彼岸櫻 里櫻 染井吉野  
 吉野山 嵐山の白山櫻  
 枝が霧のようにそそり立ち  
 白い花と淡緑の葉が鮮やか  
 しだれ桜は彼岸櫻の仲間  
 吉野竹林院 丸山公園 平安神宮  
 大野寺 紅吹きの江戸ひがん  
 仏様に捧げる花のように見える  
 古来 名櫻と称された里櫻  
 奈良の八重ざくら 淡泊俊雅  
 善賢家 蘭山 磨金ざくら  
 早春のころの染井吉野  
 伊勢の神宮の五十鈴川のほとり  
 アメリカのワシントン

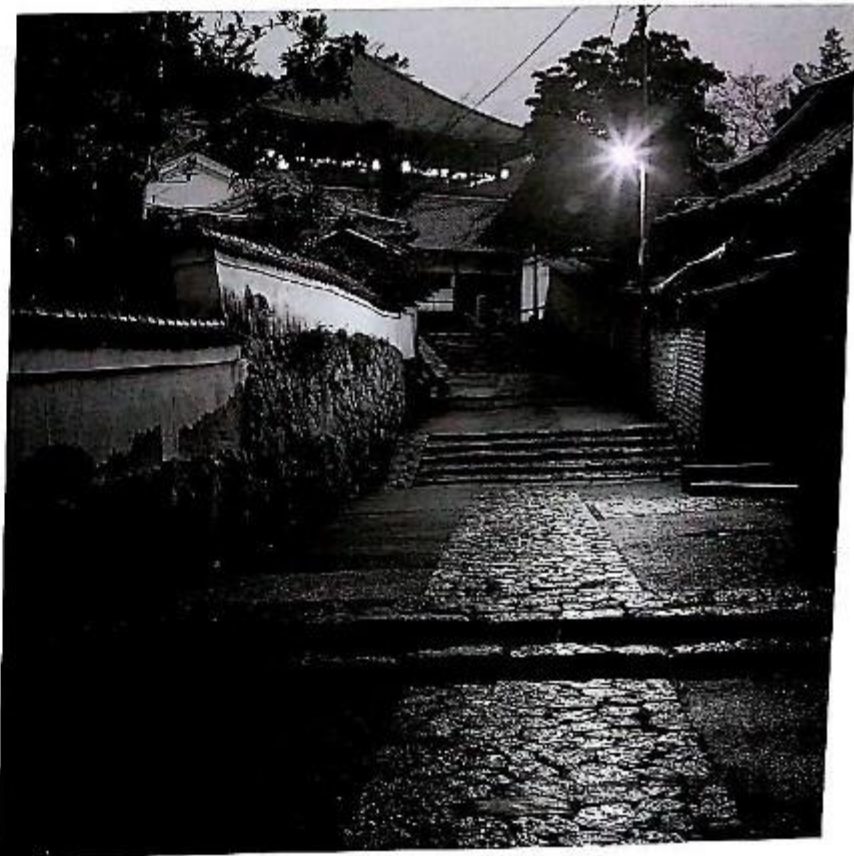


しだれ桜 (東大寺・三月堂付近)

Photo essay

# 花化粧

題字 中田 蘭石  
 撮影 由井 収  
 文 松 永 恵一



雨の裏参道 (東大寺・二月堂)

季節の



カタクリ



オオイワカガミ



地蔵院

実景

陽春

撮影 武市通治



イワウチワ



玉川



暮浅い御池岳・幸助の池 (鈴鹿)

小林 実



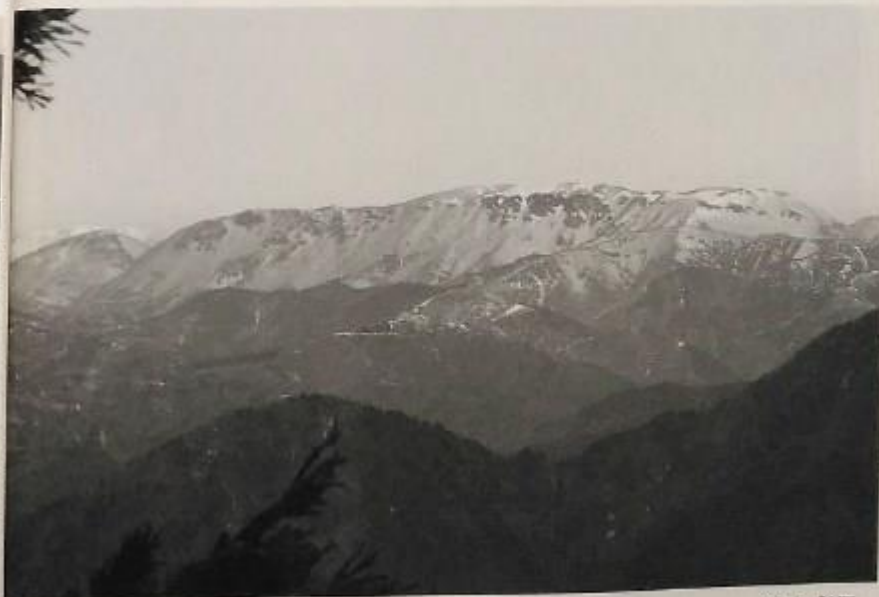
溪流 (雙岩大杉谷)

吉沢 栄一



能登ヶ峰のササ原とけもの道 (鈴鹿)

小林 実



クラシ北尾根より御池岳 (鈴鹿)

浦原 計四





克

### 山の価値について

西尾 寿一

始めから存在するから存在するの、それとも、人間が認めただから存在するの、この問題は無機と有機との対立か、それとも無為と有為の対立か。この哲学的な命題を解くことは困難なことかも知れないが、それでも一定の判断を下していかざるを得ない事柄はあるのである。

例えば、深田百名山が厄介なものになってしまった。人が選定したものを四国八十八ヶ所参りのように廻り歩くことを批判する人と、機嫌よく愉しむ自白はないのか、と反論する人もあり騒然となった感がある。

批判する側は「百名山」そのものに反対しているわけではなく、ブランド品への集客が、山

の荒廃をまねき、交通や宿など、他に迷惑がかかることを問題にしている。解決策として登山者の分散を提唱するのに対し、反論する側は、あくまでも自由に登る権利は保障されるべきだといふものである。

ある人は「百名山」に登山者（客）が集まるのは、人気投票のようなもので、だれも文句はつけられない。人が美しいと認めたら羨ましいのであり、その数の多さによって価値が定まってくるのだ。芸術品や書画骨董など、この世のあらゆる物がそうである。だから自然の成り行きにまかせるべきだ、とおっしゃる。

資本主義、市場経済の論理としてつけたまわったが、これは有為自然の極端な例でもある。しかし、有為自然で人間の能力を測るのはよいとして、自然のまま放置せよというのは、都合のよい無為自然の部分利用である。

はないのだろうか。

有為でいくならあくまでも有為で徹底的に管理すべきであり、他人の迷惑に目をつぶり、無為自然で逃げていようでは困るのである。これでは、自由は主張するが責任はとれない、と云っているのと同じだ。

人気は自然に生まれるという勘説もある。もつと強く言ってしまうと、人気は人為的に作られるのである。「深田百名山」も、深田氏の手を放れてからは、販売として利用できると思える業者の手によって商品化されているのであり、これが流行の仕掛けである。

中・高年登山者のなかには、業者のお膝立てに乗って山行をしている人も多く、自分たちが企てて登りたい山が選定できない人なら、別の山へ行っているはずだ。

百名山を業者が利用し、これ



克

### 随想 (山のエッセイ)

を活用する中・高年登山者があっても、これは別に悪いことではない。問題は人の数なのだ。数の多きはお金や財産の場合は結構だが、山で行列ができるだけはよろしくない。

登山道は荒廃する。トイレの問題、山の水が飲めなくなる。登山口の駐車場・宿の独占、交通機関の混雑などなど、あらゆるところで問題が起きていく。これらのことは、いったいだれの責任なのだろうか。

わが国では過去に巡礼や、印勢・熊野など特定の聖地詣でに、年間数十万人を集めていたのだが、現在とは人口の差が歴然としており、それほど問題視されなかった。しかし現在は全く違う状況にある。

小生たちは長い間、この問題で頭を悩ませてきたが、解決策としてはやはり、登山者の一極集中を避け分散させる方向しかないと考えている。なぜなら、

ごく少数のこれら有名な山が集中攻撃を受けているのに対し、良い山でありながらも、無名のため放置されている不遇の山が多くあるからである。全体から見れば、せまい日本と言われながら無名でも良い山が空まなだ。

業者が改善を言っても無理だし、中・高年登山者も、名山ツアーなどに参加しないように言っても無理だとしたら、こうしたことはいったいだれが行なえばよいのだろうか、そこが問題である。

そこで山歴三十年以上のベテラン登山者が、いっせいに発言していただくことも効果があることかも知れない。

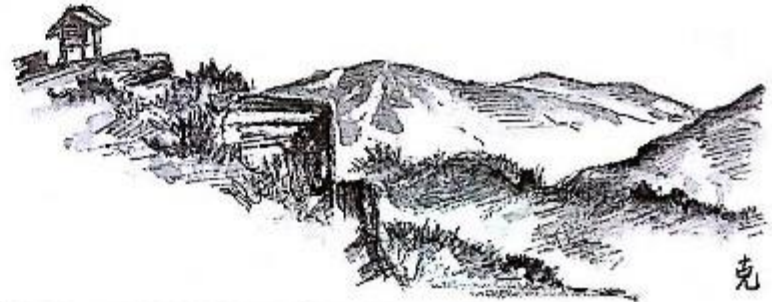
もうひとつは、価値感の逆転である。人気の高い山は最下位にして、不遇の山を最上位に置くのである。小生はずでこれを実験しており、山で人に出会ふことなどあったにない。

山の自然を思う存分楽しんでいる。

この経験から、人気を得ている山が雲霞上、不遇の山に自然的要因において勝ることは決してないと思断言できるのである。



ユキヤクギ (ユキヤクギ)



克

### 口笛を吹く山の少年

一日和田にて

奥田 英一郎

木曾福島を登って一時間余り、冬枯れの雑木林のなかをツツウーと走り去る山鳥などを車窓から眺めたりしているうちに、やがてニンジン音が次第に響くようになったかと思うと、バスはとある切り開きに着いた。その時、大きな景色が眼前に広がった。

厚い雪におおわれ、春の陽に輝く御嶽山が大きな空をひとりと占めしていたのである。横に長く引く裾野の端には人家が積木細工のように見え

た。地蔵峠で横浜から来たという二人の青年がバスを降りた。傍に一本の桜の古木があり今が満開であった。古屋敷から

乗ってきた老人が乗客の一人に馴れ馴れしく話しかけた。老人は村長さんらしくて、客は山麓を廻って葉草を買いつけて行商人だった。西野峠を越えたいと言うと、二人は声をそろえて池の沢で降りて歩くのがいいと教えてくれた。

言われた通り池の沢で降りて歩き始める。西野までの道はずっと御嶽の展望道だった。足元に西野川が流れ、吊り橋が架かっているそばに、墨根に石を置いた人家のある風景は、思わずカメラを向けたくなる。黒々とした火山灰の耕地には所どころに残雪が鈍く光って、はるか北のほうには白い綿帽子をかぶった乗鞍岳が望まれた。

というそばをあきらめて、団食に懐くをいただいた。道筋の馬頭娘首などをカメラに収めながらのんびりと歩く。飯曇き屋根に切妻造りの民家は朽ちかけた牧棚に囲われて静まり返っていた。

国境の峠へは、新雪にはまだほど近い落葉松林の中の雪道をたどる。阿多野郷への峠に立つ時、ちょっとした感覚がよぎる。越して来た木曾の国への郷愁と、見知らぬ飛騨の国へのほのかな期待だろうか。御嶽はすっかり形を変えてしまっている。横から見るせいか、壱子岳が張り出してちよと富士山を見ようである。

飛騨の国に入ると雪はいっそう深くなった。冬枯れのなかにボンと一軒家があった。兄弟だろうか男の子が二人、照り返しの強い光の中で雪まみれになってはしゃいでい



克

### 随想 (山のエッセイ)

た。春の陽は暖かく、雪が融けてグシヨグシヨの道を濡れて歩いた。明るく青く澄んだ空の下、礫岩川に沿ってやさしい風と一緒に歩いている時、口笛を吹きながらやってくる少年に会った。山の子にしてはやや色白だったが、顔を合わせた時に軽く会釈をしてくれた。その表情が爽やかなのにつられて、思わず声をかけた。

少年は見知らぬ旅人に、笑顔で岩魚釣りから山菜摘み、まきのこ狩りに御嶽登山、そしてスキーのことなど、楽しいことばかりだと話してくれるのだった。活き活きと語る少年の目がきれいだった。

この清澄な空のもと、何とも言えない透明感の漂う自然のなかで聞く少年の口笛は、ふとヨーロッパアルプスで歌われるあのロマンティックな

ヨーデルを思い起こさせた。少年は「都会には何の憧れもない」と言っていた。別れざわに、日和田に泊めてくれる民家のあることも教えてくれた。

長い春の陽もようやく傾きかけた夕べの道を、伝説を秘めた山里を指して歩いた。今しがた別れてきた少年の言葉をかみしめるように。

紫紺色に暮れなずむこの飛騨の深い山間の道が、どこまでも続いてくれるといいと思いつながら……

### 古山靴のため息

筒井 克治

最後のカーブを廻ると待っていてくれた。芦生・三國峠の登山口、東屋の軒の下に、くつしたを抱きかかえて、きつちりと擦えられたばくの山靴が目に入った。

愛車レッドベッカーの鼓動も、何かしら嬉しそうに聞こえる。

鈴鹿から2000き、走りに走って迎えにきた口琴があったと言ふものだ。ベンチの上で改めて靴を置き、「済まんかったナ、長年連れそったお前を忘れて帰るなんて、幾晩も寂しかったやろに。悪かったなあ、ビールを飲んで再会できたことを祝おう。

しげしげと山靴を見る。脂



## 随想 (山のエッセイ)

克

気のない革肌、皮革の巻き目は針金で縫われている。こすれる所には穴があいている。底のビブラムには土がこびりついている、張り替えての二代目もチビれて模様もへつれて影が薄い。形もくたびれて靴紐も二代目かな、縫い糸も補修してある。でもお前を履くと、ピタッとした馴染むのだ。まるで何も履いていないみたいに、地べたの感触が敏感に伝わるのだから。

古山靴と話していると、オバチャマたちが「登らないのですか」と聞く。四日前はここへおりに来なかったから、ちょっとだけ行ってみようかと出かける。ブナの斜面を駆け登って尾根に出ると、いい雰囲気の小径が、雑木のなかを頂きに向かって続いていた。根曲がりの木に凭れて、つくづくとぼくの相棒を迎えにき

てよかったと思う。それから、車は小人谷峠に12時前に着いた。百里ヶ岳をピストンしてみよう。古靴を履きながら、お前に名前を付けないでほしいと思う。ピタッの履き心地は気持ちいい。歩きやすい小径を、休みなしで飛ばすと13時30分山頂に到着した。快調だね、きょうからお前の名はピッコロにしよう。気温4度、時雨れてきてすぐに寒くなってきた。一杯飲んでと思うが、寒くてゆっくりもできない。開けた所からは遠く琵琶湖と日本海が望めた。車には15時に帰ることができた。佛路は花折トンネルを抜けて帰ることにした。昔、比良の山を縦走して、下山した所が花折峠で、そこから大原の三千院まで歩いた思い出がよみがえる。

谷間の山奥に時雨がきた。谷に沿った道はくだるほどに険しい渓谷を見るようになる。なかなか良い谷だ、また訪ねたくなる気分させてくれる。この奥にも三國岳の山がある。北山へのアクセスが一つ発見できた。梅ノ木からは教習街道を都へ上る。雨がきて道路の気温表示板は6度、夜には雪に変わるだろう。冬はもうそこまで来ているのだ。花折トンネルを抜けると強い雨も止み、琵琶湖大橋を渡る頃には青空が出てきた。三上山のオニギリ形はよい道しるべ。1号線にのると気持ちもゆったりとして三重へ帰るのだ。山の神とピッコロが何となく重なってくるのがおかしかった。

## 早春の雪の低山

# 貝ヶ平山から長谷寺へ

阪本 健治

## 大和高原

奈良の初瀬街道西岸の西北方向にそびえる貝ヶ平山(734.6m)は、『万葉集』に多く歌われている跡見山・跡見の岳・跡見の岡といわれている。神武天皇が橿原宮で即位した三年後、諸国の生産が豊かになったことを神々に祭礼報告したという鳥見山(跡見山)の神代歌の原型といわれる霊時伝承地碑が、この鳥見山南中腹にある。古代史と万葉の山である。「射目立てて跡見の岳辺のなでしこの花総手折り われは行きなむ 奈良人のため」 紀西人(巻八 一三四九)

ひとつと言われる大きな木彫の観音さまをこ本尊とする長谷寺を結んだ大和まほろば万葉の山旅。春のあらし寒気旺来襲。春うららののはすの大和の低山が、マイナス30度という超一級の寒気団の来襲で山頂付近は雪におおわれ、山麓も終日寒く、梅・桃・ナンシユ・レンギョウなどが凍え上がっていた。橿原駅から商店街を抜け、近鉄のガードをくぐると名張・針方面への国道16号号線。この国道と並行し北側に旧道がある。西岸からの古い初瀬街道で、桜井市金屋で山の辺の道と接している。初瀬

雪の貝ヶ平山山頂にて



街道は朝倉・出雲・池澤・吉野・西阿蘇を越え福地・山辺三・藤原とのびる山の辺の道と同程度の古い道である。後に観音信仰に支えられた長谷詣での道、やがて伊勢参りの伊勢木街道と重なって発展してゆく。

さて旧道は、すぐ左に織田信長の家臣服部宗祐入道が住持した宗祐寺があり、千本松子の古い町並みを進む。式内社標





宮垣内集落から高東城跡(右)のピークを望む

下神社を過ぎると榎地で、国道369号線に合流する。ひのき坂・天満台分岐を過ぎるあたりから、前方北西に雪を頂いた鳥見山から目ヶ平山、北東には香醉山・額井岳を望みながらのつま先登りとなる。

玉立バス停から左へ東海自然歩道に入る。右に入る道路反対側は、京都御室仁和寺の末寺で成塚薬師こと成長寺や山部赤人の墓への道だ。西峠への止塚薬師・玉立橋をくぐり10分ほどで、空海が室生

寺に入る前に錫杖を留めたという霊場（たてまつり）の曹洞寺があり、寺の手前数10坪の所に大神宮石灯籠があった。反対側農家畑に傷みのひどい自然歩道の道標に「目ヶ平山」を指す小さな紙切れがはらわれている。濱田さんが本誌15号で逆コースを収録しておられるが、この道ではないとすが……。

軍道然とした登山道。踏み跡はすぐ溝状にえぐられた道になり樹の林から疎林、再び樹林になるころ尾根にのる。木の上に積もった雪が凍ってバラバラと氷片となって落ちてくる。太陽が顔を白せば雪は消えるだろうと思っていたが、いっこうに天気は回復せず細かい雪になった。

白一色、アセビも凍える目ヶ平山

再び溝状の道から小尾根に出て、左へトラパスぎみに登ると杉の尾根に出る。左から踏み跡が合流する。鳥見山との鞍部と思われる。半袖の上に長袖カッターシャツとフリースジャケット・ゴアテックスの雨具を着け、ザックを背負っていても、汗一つ出ない寒さ。この時期低山でこんな経験は最近記憶にない。

杉と檜の混合林からアセビの急登になると白一色となる。アセビの小さな花も

寒そうに顔を垂れている。小紋部から雑木林になると15時ほどの積雪だが、クマザナに積もった雪と梢からの落雪で雪だるまのようになって歩く。山に入って初めての道標、目ヶ平山の「香醉峠へ」の分岐に出る。ここから10分ほどの急登で目ヶ平山(1746m)頂上であった。

南無妙法蓮華経・妙法奉天電大権現願屋・妙法奉天大狗小天狗鎮座・妙法八大魔王権大夫天王鎮座と四面に彫られた1坪ほどの石柱一本と2等三角点の標石が建っていた。

「化石のある花もきれいな山、のんびり楽しもう」と山の神を誘っての山旅であったが、近ごろは夫婦ともども坐骨神経痛の病持ち、寒さにのんびり休むこともできず前途に不安を感じる。

青空が出て陽の光が当たると、細かい雪は寒気のためきらきらしてダイヤモンドダストのようにきれいだが、思いがけない季節はずれの雪と寒さに震え上がる。

杉林の中、眺めない鳥見山

坐骨神経痛は転倒が禁物、慎重に慎重にゆっくり鳥見山の鞍部まで戻る。しば

らくすると積雪は薄っすらとなるが時おり、細かい雪片が舞う。急下降の途中で稲刈子をかぶった鳥見山が望まれた。赤松のピークを過ぎてくると、3坪ほどの赤土林道に飛び出した。道標はないが赤エフがあるの助かる。左へ廻り込むと林道終点。そのまま伐後後樹林して間もない尾根の薄い踏み跡を登る。

尾根に出ると道は平坦になり、左に廻り込むと、私製の山名表が板がべたべたと木に打ちつけられた鳥見山の頂上であった。林のなかで展望もきかないので早々に先に進む。

杉林を南にくだって行くと東海自然歩道の道標があり、左は展望台・あずまやが見える。ここからは金剛・善戒の山並み、なつかしの音羽山・竜門岳、室生・曾爾、台高・大峰の山々とすばらしい眺めだ。眼下の明るい日当たりに誘われて丸太の階段道を急下降すれば鳥見山園地だった。

勾玉池の奥に神社が見え、鳥居の脇には万葉歌碑があった。跡見山に積もった雪のように目立つ恋をした、あの女とこのことが露見するだろう、という雪化粧の跡見山の情景にふれた体験歌という。

「うかねらふ跡見山雪の いらしらく恋ひば妹が名 人知らむかも」

まさにきょうの景色とびびりた。神武天皇の鳥見山霊跡伝承地碑は池の右手に建ち、サクラ・ツツジ・アジサイなど花の季節には賑わうことだろう。公園園地から斜めに登り、ゆるく西南にくだって行くところ西のはずれにも展望台があった。速く大峰の山々が白く輝き、東に大きく根を張ったような山が見えた。高見山だろうか。

道は林道西時・鳥見線に出て横原への道を分け、右への東海自然歩道に行く。30分ほどで宮垣内の集落。しばらくして林道と分かれ樹の植林帯の道に入る。528坪の藤原家賢の高東城跡に登り、北西への尾根をくだると石五道になる。浄水場池から口ノ倉の高麗神社、九世紀に藤原家賢が戸隠の九頭竜権現のご分神を勧請したという天香具山頂上と同じ神さま。眼下はまほろは湖、展望台だ。

集落の道は県道口ノ倉トンネルの北口に出て、湖畔を廻って都那に通じる小夫街道に合流する。初瀬ダムのバス停から初瀬川をくぐり15分ほどで左には、背後の天神山支線上の鍋倉山に古い巨岩僧印

の祭祀形態を残す式内社の須倉神社参道入口がある。その反対を右折すると長谷寺の山門下である。

「こもりくの初瀬の山は色づきぬし  
ぐれの雨は降りにつらしき」

根曲がり松の下に桜井市が建てた万葉歌碑がある。

#### 楠の一木造りの十一面観音

西国三十三ヶ所観音霊場第八番札所で末寺三千余、国宝の三仏多宝仏塔・銅板法華經相図などがある新義真言宗豊山派総本山豊山神楽院長谷寺である。百八間上・中・下の三階にわかれ仁王門から本堂に通じる399段の登壇、その西側段丘にある七千株のボタンは「長谷牡丹」として有名だが、この日は寒ボタンが数輪咲くだけであった。

寺の歴史は古く七世紀末、道明上人が西の丘に天武天皇の病氣平癒を祈り三重塔を建てて開創。その後聖武天皇時代に徳道上人が東の丘に、3丈3尺6寸約10尺余の十一面観音菩薩を本尊として安置したのが現在の長谷寺の創建という。

徳道二人は創建時に二体の十一面観音を作り、一体は有縁の地へ奉安しようとして

伊勢の海に流したところ、10数百年して相模国に漂着、それが鎌倉の坂東観音霊場

四番札所・浄土宗海光院長谷寺の観音と

いう。また東京西麻布の戦後復興した長谷寺に永平寺別院・江戸観音霊場(二十一

番)と共に日本三大観音像といわれている。三体系ともほぼ同寸法の楠一木造りである。

中の登壇、威王堂横に紀貫之ゆかりの梅の古木が咲き、登りつめた舞台造りの本堂からは、春雲みの屏風のような山並みが見られた。

「こもりくの 泊瀬の山に照る月ほ  
みちかけすてふ人の常無き」

柿木人麻呂

登壇が表参道、巨隈塚から仁王門にくだる東参道、五重塔から奥の院を経ての西参道と、境内は広くて多くの堂宇があり、限なく廻るとまたたく間に数時間過ぎてしまうほどだ。

山門下から古い門前町を通ると、左に長谷寺建立の鎮守神にして流合神社を勧請した与喜山天神社の参道がある。与喜山天神社のご神体は、いわゆる神奈備山は天神山4555・3644、天神が雷神となって降臨したという。カエデ・シイ・カシ

## 残雪の春山に感激

# 猿ヶ馬場山と川上岳

## 日野節雄

飛驒

はるかかな山、猿ヶ馬場山  
登山道がなく、残雪期にしか登れない  
と聞いているのは、佐武流山・毛南山・  
笈ヶ岳・野伏ヶ岳などの山々、この猿ヶ  
馬場山だ。

新ハイ誌などによると猿ヶ馬場山の登山口は、①国道360号の天生峠から(が、一番多いらしい)、②天生峠のずっと手前、2万5千圓の標高6000円(以下本文は2万5千圓・標高・村は略す)の宮谷付近から、③鳩谷ダムの林道から、④河合村の横谷からという。

私たちは国道360号線の540地点、天生峠入口の標識のある、車教習駐車可能な路肩へ駐車した。村道を登って田畑

のなかに藁が点在する突き当たり所で、杉林に入る。もちろんここからやぶであり、急登で雪も出てくる。点々とイワカガミが咲いている。葉の短い赤松がめずらしい。左下に宮谷の堰堤が見えてくる。

2時間かかってやっと尾根に出る。△1062地点だ。そこをたどると絶壁の雪の斜面に突き当たる。30分はあるだろう。雪崩が発生しかねないのでここは登れない。幸いその下に道のような所がある。後日、白川村に聞くと開発中の林道とのこと、入り口は茨町の中央通りだという。その道を左へ行き、右の林の中をジグザグによじ登る。ここまで来るとや

など千種にのぼると与喜山暖帯林は天然記念物に指定され、入山禁止が残念だ。

すぐ左に西国巡拝の開祖徳道上人が晩年隠棲した西国観音霊場番外札所法起院がある。住職は山好らしく、日ヶ平山の化石の話、鳥見山の話となかなか終わらない。

寺を辞し門前町をくだると、左手に高さ約2分の「右いせみち」の石標が立つ。伊勢辻。天神山末端部の愛宕山を越え、化粧坂をくだると与喜浦への古道・伊勢本街道だ。左折して初瀬川を渡り、国道を横断して登れば近鉄長谷寺駅である。

(平成9年3月24日歩く)

#### △コースタイム▽

近鉄長谷原駅(50分) 玉立バス停(15分)  
登山口(1時間) 鳥見山分岐(20分) 香  
酔分岐(10分) 貝ヶ平山(1時間25分)  
赤松ピーク(10分) 林道終点(20分) 鳥  
見山(15分) 鳥見山公園(35分) 宮内内  
(25分) 高東城跡(20分) 口ノ倉の高麗  
神社(35分) 初瀬ダムバス停(15分) 山  
門下(20分) 長谷寺本堂(15分) 法起院  
(15分) 近鉄長谷寺駅  
△地形図▽2万5千円初瀬

猿ヶ馬場山の広い山頂



おは完全に雪の下で、登り終わった所が1178付近だ。交代でラッセルするが、暖かいので雪がぐさり、もぐるので大変だ。

右のほうから雑草が出てきた。その雑草から単独で往復したことが分かる。その跡をたどることにした。このルートは全般的に尾根が広く、先が見えない時などは必ずかしらと思う。赤テープもあるが



1630地点のピークから見た川上岳



川上岳付近略図

三村界の石標が頭を出すピークは展望が良く、東南東に木曾の御嶽山が大きく、真うしろに加賀の白山が広がりを見せている。牧歌的風景のなか、川上岳への尾根道はあるが、山頂に向けて残雪があり、春山に来て残雪の上を歩かないではない。くだって、途中から登山道に入る。

1617地点は、宮村・馬場村・萩原町の境界だが、雪でその標石は見えず、登山口で見たアルミ製の大きな標識は、

宮村への下山口のみが印されていた。どうも宮村の村おこしのためか、軽くひと登りで川上岳(1626m)山頂に着く。

1等三角点の標石があり、例のアルミ製標識がでんと建っている。位山への道も見え、車でなければ歩いてみたいところだ。展望は東から御嶽山、春山の乗鞍岳、北には立山連峰が小さく白く浮かぶ。その間は心眼でしか見えない北アルプス。白山は大きく、加賀や飛騨の山々が連なっている。その中に縞々馬場山もあるのだ。



縞々馬場山付近略図

少ない。あたりは落葉樹だ。左手に深い谷を隔てて、白い山や尾根が見える。△1472・3地点で昼食にする。予定では12時登頂だったが、「このふんでは14時が退却時刻だな」と私は呟いた。もう11時を回っていた。

広い尾根が続く。縞々山の登りはたいたこともなく、山頂までオオシラビソの雪原を行く。1662地点の南面に

来てやっと山頂らしい山が見えてきて、顔が自然にやわらぐ。

13時55分縞々馬場山頂(1875m)に着。先着の二人の男がいて、「ト小鳥湖から4時間で来た」と言う。特殊な長靴・フカンの風体から「マクギ？」と聞くと「飛騨古川のマクギだ。きょうは写真を撮りに来た」と言う。私たち三人の写真を撮ってもらったが、山頂標識がない。山頂は広い雪原で、小学校の校庭ぐらいある。展望は白山が南西に大きく見え、360度の山並みに見とれた。マクギさんと「気をつけて」と言ってお互いに別れる。

くだりは効率よく歩くため軽アイゼンを着け、跳んでおりたが、長くて最後の松林ではバテバテだった。

宿を高山市の隣、宮村の民宿「みやけ荘」に決め、18時20分に電話をしたら快諾してくれた。2時間後に着くと盛りだくさんの料理が待っていた。まずは乾杯。

宿は飛騨一の宮沢と、江戸彼岸校で有名な「臥竜校」のすぐ近くで、毎年5月1〜2日が桜まつりという。

春山のんびり、川上岳

宮村から国道1号線と、257号線を結ぶ宮川ダムへの道は、除雪されていて釣人が多い。そこを15分ほど行くと左の岩に「川上岳国有林」の標識があり、数台駐車可能な場所がある。ゲートがあり、鍵が掛けられていた。許可を得れば入れるらしいが、春の雪解け後では落石が多く、未舗装なので、2・7ぐらいだから歩いたほうがよい。ウグイスやブッポウソウなどが囀り、シマウツロウバカマやフキノトウをたくさん見えて、ツメタ谷の春のせせらぎを聞きながら行くと、1時間で「川上岳支線」の標識で清見村乗越に着く。1227地点で左手に真新しい「山頂まで2km」(位)山天竺遊歩川上岳(位山7km)のアルミ製の大きな標識がある。

急登を行くと残雪が出てきて、ニホンジカ一頭の足跡が登山道沿いについているので、それを出ろ。宮村と清見村との村界尾根で、尾根が狭いからきょうは間違ひなく登れる。ブナ林をたどったすら登るが、雪を踏み抜くのは春山だからしかたがない。

1580地点。宮村・清見村・馬場村

ろう。クケシバの広場での滞頂1時間は楽しい、アップ! という間だった。

感激の二日間。登れたことに感謝し、下呂温泉に入浴してその日のうちに帰宅した。(平成9年4月27〜28日歩)

▲参考タイム▼

- 登山口540地点7・25→△1062地点9・20→1178地点10・40→△1472・3地点11・00→20→1528地点12・10→縞々山12・40→縞々馬場山13・55→14・25→縞々山15・10→登山口18・00(赤)みやけ荘20・15(池)→8・30(赤)ゲートを行き返る、ゲート9・05→登山口10・10→1580地点11・30→川上岳12・05→13・05→登山口14・10→ゲート15・00
- △地形図▼
- 2万5千II地谷・白木峰・位山・山之口
- △連絡先▼
- 白川村役場 0576(96) 1311
- 宮村観光協会企画観光課
- 0577(53) 2211
- 宮村民宿「みやけ荘」
- 0577(53) 2052
- 1泊2食付6500円

# 比叡山

848

浅野孝一

比叡山・根本中堂



比叡山には、8月上旬伊吹山へ行った(前号)翌日に登った。前日は琵琶湖畔の大津に泊まった。市内の浜大津から京阪石坂線に乗り、終点の坂本駅で下車した。当初の計画では、無動寺谷のコースを登ってゆくの、亦当は駅付近で購入するつもりでいたが店がない。坂本のケーブル駅の売店で購入できるものと、日古坂道を歩いてみたが、まわりは寺院ばかりで駅前でも非当は購入できなかった。しかたなくケーブル駅のベンチで手持ちの菓子パンを一ケずつ食べて朝食とした。昼食前には山頂へ着く予定で坂本本道の参道を登り始めた。沢沿いの登山道はケーブル軌道の下をくぐって工事前の

車道を登る。大きく曲り込んだ上部で二分する車道は左に進む。

比叡山への登山道は東の滋賀県側と、西の京都府側に大別することができる。滋賀県側はさらに東塔本坂・横川本坂・無動寺本坂。京都府側は赤山雲母坂・北白川道・走出路等に分かれている。私たちは弁当を購入できなかったゆきがかり上、東塔本坂を登ることになった。

東塔本坂は、日古大社からケーブルカーの左手の尾根道を根本中堂に至る2・5kmの急坂である。かつてケーブルが開通する前には、山上の東塔に通ずる重要な生活路であった。僧侶や参詣人、山上の人たちの生活物資、堂塔建築の積材料も

みなこの道を利用したといわれている。道幅は広いが急坂が続いている。

前書きが長くなったが、比叡山について述べてみる。藤所藩士奥川辰清の編纂した『近江國輿地志略』によると「比叡山 舊郡(志賀郡)の西極・長等山の北にある山なり。皇都の良帝にして、皇城の鬼門を鎮護すといへり。」「拾芥抄」に、本邦の七高山を載たり。比叡山は其



一なり。此山、麓より攀踏する時は五十町餘あり。坂本より頂上大嶽まで、直立すれば六町餘なり。自古此山を京都の富士といふ。」とあり、近代明治期に入つて『日本山嶽志』は「比叡山(別稱雲母山、日枝山、天孫山、雲母山、良嶽、北嶽、大嶽、雲母山、我立山)近江國滋賀郡山城國愛宕郡二時ル、滋賀郡坂本村大字坂本

ヨリ一里町餘、愛宕郡修學院村大字一葉寺ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ連ス、標高二千七百九十九尺」と記している。

山中の描写について『日本名勝地誌』は「凡そ叡山に三塔あり東塔の南谷を隔てて数町の所になり、登程漸く高下に望み、沿岸の好景悉く遊覧の間に撰ん、山中名勝百蹟多く、一々枚挙するに遑あらず……」

登山道が送電線の下をくぐるあたりから眼下に琵琶湖と大津市街を見ることができたが、対岸の山々は霞のなかにあり見えなかった。登山道はほとんど樹林帯なので日光の直射が少なく風が吹き抜けて涼しいが、思ったより急坂が

続いてゆく。時どき早朝登山の人と行き交うが、登っていく人たちは10人ほどであった。

暑いのと腹がへってさたのでよく休んだ。木陰で休みながら叡山の歴史を考えてみた。比叡山といえは天台宗開祖の伝教大師(最澄)のことが頭に浮んでくるが、山の歴史はさらに神代まで遡っていることが『古事記』に記されており、大山咋神が地主神であったと伝えられている。

山中の建物は全て寺院である。昔山内

登山に必要なものは、  
 自産・約染  
 すべて揃っています。  
 足にピッタリ/  
 登山靴のことならお任せ下さい。  
 (定休・火曜日)  
 〒604-0077 京都市中京区九太町通堀川東入  
 ☎ (075) 211-5768  
 ℡ (075) 231-0318  
 山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**

登山・ハイキング専門の旅行社

# アミューズトラベルの山歩き

**キリマンジャロ山 (5896m) ゆったり登頂とサファリ 15日間**

高度順応日をもうけた、ゆとりのある日程でアフリカ大陸最高峰に登頂します。

【出発日】3/22 【代金】588,000円

**エベレストゆったりトレッキングとホテルエベレストビュー 9日間**

エベレスト街道をゆったりトレッキング。エベレストを始めとするヒマラヤの高峰群は圧巻。

【出発日】3/28 【代金】368,000円

**カラコルム山岳展望と桃源郷フンザ・ハイキング 9日間**

ナンガパルバートなどカラコルム山群の大展望と杏の花咲く桃源郷フンザを訪れます。

【出発日】4/3 【代金】348,000円

**ボルネオ島の怪峰 キナバル山 (4101m) 登頂 5日間**

ボルネオ島のジャングルにそびえる高峰。登山道もよく整備されています。

【出発日】4/11 【代金】148,000円

**中国・黄山 (1873m) 縦走 6日間**

奇岩を縫って山頂に立てば、遙かに揚子江を望む山水園の世界が広がります。

【出発日】4/30 【代金】228,000円

**台湾最高峰・ゆったり玉山 (3952m) 登頂 5日間**

登山道はよく整備されています。入山許可を取得するためにお早めにお申し込み下さい。

【出発日】5/15 【代金】185,000円

## ゴールデンウィークの国内山行

宮之浦岳と縄文杉 ④4/26(日)~29(水祝) ⑤5/2(土)~5(火祝) 129,000円

北アルプス・燕岳(雪山コース) 5/2(土)~4(月祝) 78,000円

北アルプス・蝶ヶ岳(雪山コース) 5/2(土)~4(月祝) 78,000円

大峰山脈(大天井ヶ岳と観音峰) 4/25(土)~26(日) 28,000円

大峰山脈(大普賢岳~八経ヶ岳) 縦走 5/2(土)~4(月祝) 45,000円

大台ヶ原~大杉谷 5/2(土)~4(月祝) 45,000円

美山町・白尾山と芦生原生林 4/29(水祝)~30(木) 35,000円

四国・剣山~三嶺 縦走 4/29(水祝)~5/1(金) 59,000円

★98年度新パンフレット(国内外山行プラン)、海外山行の詳しい資料、ご請求下さい。(無料)

**アミューズトラベル株式会社 電話06-265-3303**

〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館



比叡山の文殊堂

は女人禁制であった。登山道の途中に花壇の石碑があるというが、私たちは見落としてしまった。それは毎年4月8日には女性もここまでの登山が許されたので、多くの女性はここまで花をもつて登山したとか。伝教大師の母の藤子もわが子に会うためここまで登ってきたと伝えられている。のち智証大師(円珍)がここに花壇堂を建てた。

智那先徳用御座理檀那流の祖の碑前を通り、聖壽院堂から登山道はコンクリート舗装となる。法然堂から急坂を登った所は延暦寺会館であった。さらに進んで事務所会館地下にあった鶴宮をば屋に入っ

て食事をした。  
比叡山の歴史のなかで忘れることのできない事件は、元徳二年(1591)9月12日の織田信長による叡山の焼き討ち

であろう。山上の堂塔四千五百余、老若男女三千人以上がその犠牲となったという。それにしても山中の建造物はそれ以後のものであるが、その規模の雄大さはずい。

宗教とはかかるものかとの感を強くいだいて下山の途についた。

比叡山の山頂は、京都府側の四明岳(839m)と真珠の大岳(大比叡・848m)に分かれてあるが、そこらには登らなかつた。

下山途中のバスの中で、次回はゆっくり山内の見学をしてみたいと、考えた。

注 引用文中の本邦の七高山については前号「伊吹山」を参照のこと。

(平成9年8月3日歩)

### 参考タイム

坂本ケーブル駅 5:30 途中休み 9:50  
10:04 延暦寺会館 11:15 20 鶴宮  
そば屋 12:25 12:00 バス停 12:30  
△地形図 2万5千 京都東北部

### (この花・この草)

ジャガイモ (Solentum tuberosum L.)

ナス科

家庭料理の材料としてなくてはならないもの。それはジャガイモ。中国名の馬鈴薯も良く使われますが、和名のジャガイモはジャガタライモの略で、その昔オランダ船によりジャカルタから持ち込まれたことに由来します。

南米アンデス山脈の高地原産。非常に古い時代から栽培されており、今日では世界的に広く食用として普及しています。

双子葉植物合弁花類の多年生草本。花は集散花序を腋生または頂生し、品種・環境によっては直径数cmの球形の漿果を結ぶこともあります。

生薬では、塊茎から得られる澱粉を用います。民間薬としては、芽をつぶしてその汁で墨を擦り、出来た黒い液を水垢癬の頭につけると、他に移って広がるのを防ぐと云われています。

このジャガイモの芽などに含まれるソラニンには溶血作用があり、その中毒が心配されますが、この成分は熱に弱く、加熱すれば中毒の心配はまずありません。

ジャガイモはビタミンB1・Cが多いので、保存食としても優秀です。

輝き増す生涯現役の島、西瀬戸三島

# 周防大島・厳島・能美島

多摩雪雄

瀬戸内海

周防大島  
特別な人の特別な葬儀に数百万の人が  
参列、号泣し、全世界8億人がテレビの  
前に座して哀悼の涙を流した。世界のプ  
リンセス・ダイアナ。  
その二日後に「こころを温まる小さな集  
落」の新聞記事があった。

山口県に属する大島郡東部の東和町の  
人口五千七百八人のうち、高齢者は二千  
八百人。高齢化率・独り暮らし率・老犬  
疑世帯の割合も日本一の「高齢化三冠王」  
の町。だが「定年なき社会」のなかで、  
おのおの役割をもって生き、助け合い  
の伝統が残っている。  
十五人の独居高齢者に1時間かけてポツ

トジャーの弁当を届ける八十二歳の女性  
診療所の医師は八十八歳。漁協組合員の  
八十八歳氏は木造船で沖に出ている。老  
いを支える人たち。「老け込む暇はない  
わね」と、元気に答える婦人たち。「輝  
き増す生涯現役の島」こんな八段抜きの  
大見出し記事が、昨年9月初旬に掲載さ  
れた。

もう一度行ってみたい。と当時を思い  
うかべる。  
過ぐる年、山口県南部の名所と紙山を  
数日間探訪し、最後に大島を訪れた。目  
的は島東端の大見山と鯛嶽である。  
一度目は平成三年3月中旬、宝津半島

大見山山頂にて



を調査して柳井に戻り、バスで大島瀬  
戸を大島大橋で渡って隠代島に入り延々  
1時間半、伊保田の「三品川屋旅館」に旅  
装をといた。  
愛想のいい美形の女将は玄關脇の大部  
屋二室で、二、三の婦人たちと翌日の祝  
儀引出物の弁当料理に余念がない。この  
宿は料理・仕出しを生業としている。  
油子発の一番バスで海水浴場や青少年



旅行村の諸施設がある逗子ヶ浜に降りた  
のは7時。笑八幡宮を拜したのち、背後  
の逗子ヶ浜4等三角点22・5尉を天然林  
のなかに見て、20分後に八幡宮前から柑  
橋作業用コンクリート道に入り、標高1  
40尉地点で二本庄道を横切ってなおも  
進み、独標181尉の南の作業小屋でコ  
ンクリート道は終わった。以後は0・5  
尉幅の古道となる。ここまで40分。

崖をひとつ越え、樹叢密生する次の大  
窪を越え、と道形は消えた。戻って、初  
めの窪との中間の広い斜面の左側赤松竹  
林、右側杉林の間のかすかな踏み跡を登  
りだす。  
竹林をぬい、小沢を渡って左折し、樹  
枝を切り払いながら登ること標高差10  
0尉、大見山西の草叢密生する狭長な頂  
上に9時ちょうどに着く。行く手の密生  
崖草に群鳥したトップは、時間切れを理  
由に引き返し、コンクリート道終点を9  
時30分通過、逗子ヶ浜で30分待ったバス  
もわずか5分で陸奥記念館に着く。40分  
見学後、再びバスで伊保田港に至り、40  
分後の高速船で岩園港には13時20分に着  
いた。

### 二度目に登頂

翌平成8年3月初旬、今度は地理院か  
ら「一点の記」を手にし、そのルートで登  
るべく、西春18きっぷで一日かけて岩園  
に泊まり、翌朝一番の高速船で伊保田に  
着く。  
油子のタクシーは二台だが、東和町か  
らも応援配車してもらって、15分港を  
後にする。

逗子ヶ浜から東南行する二本線の作業  
道に入り、東から合する実線道との二股  
で下車したのは9時45分。標高140尉  
地点。付近にいたオババに聞いても要領  
を得ない。  
実線道に入ってみるが、大沢を渡ると  
北へくたつてしまふ。

図上の植生界にモノレルル始点があり、  
作業道が発っている。みかん畑の境を抜  
けた右手の広い小曾根に判然とした道が  
孤島竹林のなかに通じていて、わずか30  
分で小広く刈り払った大見山(点名油子  
ノ山336・89尉)頂上に達した。平成  
5年1月に更新した1等三角点標石の磁  
北は20度。暗装のない化粧面を全部露出  
して、午前9時過ぎに陽光を受けて長  
い影を枯れ枯れの地表にうつしていた。  
時に10時30分、無風、快晴、13℃、暖か  
い。樹高18尉ほどの椎木に囲まれて見晴  
らしは得られない。

「一点の記」記載の貯水槽は西側の樹草  
のなかに埋もれている。  
帰路、西の麓部から昨年の秋長丸へ  
はっきりした道が通じているのを確認し  
てくると、登りでは気づかなかった北  
西方の海岸線の眺めが良かった。

頂上清堀20分の後、モノレール始点には25分ぐたり着き、英八幡宮前でバスを待っていた。

#### 陸奥記念館

松ヶ鼻の沖3.5kmに、昭和18年6月8日原因不明の大爆発を起こして、1121名の将兵とともに世界に誇る戦艦「陸奥」は沈没し、昭和45年6月引き揚げを開始した。多くの遺物は記念館に展示しており、艦首の一部と主砲、40号艦砲等は屋外に展示してある。昭和17年6月のミッドウェイ作戦にも原艦「長門」とともに支援している。

この松ヶ鼻からの眺めは当然のことながら良く、南一段下に練習機等も展示し、食堂、休憩舎と、なぎさ水族館、野宮場、農林水産物直売所等も完成した。伊保田までは歩いてわずかの距離。注文してある弁当を受け取るべく「品川屋」に立ち寄り、港に届けるから、本日落慶の大催堂に詣でてくれ、と言った。高台の精緻地に帳幕を張りめぐらせて展示は抜群であった。参拝を済ませて港に戻ると、船中での弁当は豪華であった。



厳島・弥山村近略図

▲コースタイム▼文中を参照  
 ▲地形図▼2万5千1伊保田  
 品川屋旅館 08207(5) 00106  
 油子タクシー 08207(5) 1175  
 高速船予約 0827(21) 1127

#### 厳島

日本三景のひとつ、安芸の宮島は、NHKの大河ドラマ「毛利元就」にも出てきたが、その決戦を誘発した毛利の御城の宮の尾城跡とおぼしき要害山4等三角点27・1層は見晴らし良く、今伊勢神社

を勧誘している。

千疊閣・五重塔・厳島神社と、その朱の荘厳と広大さに驚嘆し、車末玄清落神社から大願寺・多宝塔等を拝して、国民宿舎「松の宿」に泊まる(宿・サ込1万円だが、再泊したい設備と料理と係の人のもてなしであった)。

宿から真町のたたずまいの閑寂さ应邀をつまらせながら、ロープウェイで頂上駅に着いたのは時。岩山の道をぬってくだって行く人と割れした鹿が寄ってきたりした。不消堂火堂・二鬼大権現・弥山本堂、そして大岩に囲まれた小広い弥山頂上2等三角点529・8層からの眺めは任務であり、休憩所もある。

くだってゆき、御山神社・大日堂・文殊堂・毘沙門堂・不動明王・岩窟内の石仏群等を拝して登り、再び堂火堂に戻りロープウェイの下駅から無料バスで公園口に至り、商店街をぶらついていくと、裏の隙から大聖院にくだった若手に這いつかれた。

▲コースタイム▼文中を参照

▲地形図▼2万5千1厳島  
 0829(44) 0430  
 社の宿



能美島・野登呂山村近略図



雨の野登呂山山頂

#### 能美島

宮島を18時10分の渡船で宮島口に渡り、庄島からタクシー、高松船で能美島の中町港には14時23分着。予約したタクシーで林道野登呂山線に入る。郵便局西1300m、標高2000m地点より北行し、能美町と沖美町との町界線、△422・5層の南800mに蛇行しながら登り着く林道は、それより後上やや下方を南行して野登呂山頂まで2500m地点の終点までのがびているが、この時はまだ完成しておらず、崩落除去作業のため、被線南東500m、標高2500m地点で下車せざるを得なかったが、幸いわずか1500m先に捷路を見て登り、稜上の伏採小丸に達した。

雨が降ってきたが、樹林中の判然とした道をたどって、松主体の雑木に囲まれた頂上に着いた。

点名能美島(俗名野登山)一等三角点542・00m。昭和61年3月更新の標石は頂上に小さな隙間があるが、枯れ葉の散る草地から頭を出して、厳北は0度、規定通りに埋められている。この野登呂山三角点標石から北々西へ7層、頂上、今たどってきた稜上道の右手に順

42号天頂点がある。

樹枝が張って歩いて歩みにくい道形の、浅い窪状をくぐって舗装路に出ると、一面のみかん畑となった。標高とはいえ本日二山目の登頂を果たしたことでもあり、夕景ともなったのでタクシーを呼んでトラウガ鼻の国民宿舎「海上ロッジ」に入ったのは18時ちょうどであった。

▲コースタイム▼

能美島中町港14・23(タクシ) 林道登り口14・50(頂上小丸15・40(50) 野登呂山16・25(35)みかん畑舗装路17・30(40(タクシ)) 海上ロッジ18・00  
 ▲地形図▼2万5千1江田島

宇品高速船 082(240) 2330  
 能美タクシー 0823(45) 2525  
 海上ロッジ 0823(45) 2335

大見山と野登呂山は、平成9年9月に各町役場係員が現況調査済みである。現在、林道野登呂山線は霧が降り、舗装路が、山頂付近まで完成している。

ラッセル深く未登頂に終わった

# 黒姫山

松田敏男

上信越

黒姫山



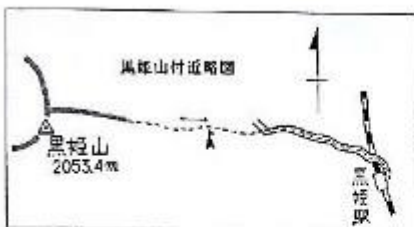
黒姫山に行こうと考えたきっかけは、昨年夏の高妻山山行にある。その夏の盆に登った沢ヶ岳が雨だったため、いまひとつ恒例の夏山を満喫していない気分が残っていて、8月最後の週末に高妻山へ行った。大阪から長野行きは夜行バスがあることを知って、それを利用した。長野で戸隠キャンプ場まで入った。その途中で飯綱山の登山口の車をバスが通る時雪の季節でも、この山なら安全そうだった。途中にテントを張り、雪の頂上から北アルプスを展望する。なかなかいい考えだと、心に留めておいた。そして残雪期を遡え、飯綱山へ行こう

と考えていたが、飯綱山よりも標高が高く、かつ待ち時間の長かった一番バスに乗るより、発車時刻の早いJRに乗り換えて黒姫駅から歩ける距離にある黒姫山の方がいいのではないかと考えた。標高も2000mを超え、飯綱山よりひとまわりスケールが大きいこと、そして高妻山や妙高火打連山が近くなることも、うれしい材料だ。心配ごとには花粉症対策。昨年は症状がひどくて山に行けない目があった。今年は早めに薬を飲み始めて、体調が大崩れしないように気をつけ続けた。荷物の重さはやはり20kg程度は超える。テント・マット・シヤラフ・コンロ・コッヘル・

食料、そしてカメラと給の道具など、衣食住に加えて趣味の分野までひとりで背負うのだから当然である。しかし基礎体力が大福に落ちているこの季節には、相当厳しい条件だ。途中で引き返そうが自分ひとりのだけの世間。満足感が持てるかどうかだけのこと。一般的には里に泊まって軽身で日帰り登山をするぐうぐうの距離なのだろうが、私には雪の山中にテン

トで連泊することにも大きな目的がある。

長野駅から朝一番のJRに乗って黒姫駅へ。日常生活という空気が支配する車内で、私のみ浮いたような心持ち。黒姫山の姿を追う姿勢が、やや遠慮がちになっている。山を隠していた白い雲がだんだん上がって薄れていき、薄雲が深みを増して白いスカイラインを際立たせようとしている。駅に降り立った時にはすっかり暗れて、雪が光っていた。



ガイドブックのコピーを読み、近道を探しながら進んだ。早く雪の上に出て少しでも花粉の飛び交う平地から離れたいと願った。最後のペンションの前を過ぎ、車道が大きく右に曲がる地点で、果樹の苗木畑らしき所に入る。雪

がほぼ一面に積もっている。ガイド文の通り歩いているのかどうか、少しあやしい。しかしその裏に登山用靴があったので間違いない。屈げ用紙に記入する間違いない思いながらも不安になる。もっともらしい道が先に続いている。20年ほど経った植林帯のなかに入り、しばらく進むと幼木の植林帯に出た。小川沿いの野道といいた感じのゆるい勾配を登って行くと、左から前方へ直角に曲がっている角に出た。はたして黒姫山表参道という名の道歩いているのだろうか。あまりにも名前難れしありあわせの道にみえる。その林道をはんのりりも歩かないうちに、左下に黒姫山の標識があった。熊出沒注意の看板がその標識にあること、多から、多くの人が通る道なのだと思えてきて、少し安心する。人の来ない道に熊の注意書きなどはしない。しかしその確かなような道も雑木林を通過して行くうちに、表参道とは言いがたい雰囲気になってきた。左側に金網が出現し始め、右はやぶの斜面が行く手をふさぐように張り出し、金網の裏には大きな止場が現れて、だれも居るようにはない建物が見えた。金網が切れて、資材置場にでもなりそう

土の広場の隅を進むことになる。そこから車道が始まっていて、建物を廻り込んで左にのびている。そのまま車道を行くべきか、方向を優先して前の川へ雪の斜面をおりていくべきか。地形図とガイドの文とを見比べながらしばし思索する。対岸の雑木林には何となく道がある。そして赤テープもある。しかし橋はない、橋があったような形跡もない。こちら側の雪の斜面にはどこにも登山道らしきものがない。ラッセルをしながら川におりると、どうにか靴を濡らさずに右に曲がって渡れることがわかった。大木になせか忽然と現れる赤テープを頼りに、ゆるく斜面を登り始めた。植林のなかに持参した赤布を付け始める。雪がきっちり積もっている。足跡だけで充分歩いた道は別建てできるようなものだが、下山は一旦後なので安心するためにこまめに付けた。また林道に出たが、支柱からはずれて雪面に隠れかけている登山道という標識を見つけ、その付近の歩きやすそうな所から、樹林のなかに入る。登山道のような感じになってきた。カラマツ林のなかの幅広い道のような雪の斜面の所を登る。二つ目の赤布までが





登山道のブナの樹影

見えることを目安にして、どんどん使ってしまうので、1000本程持ってきた赤布がわずかになった。まだ下のほうなのに山行はここまでかという考えがよぎるが、あすもおだやかな天気だったら赤布なしで往復しようと考えた。残りが数本になった時、左手の樹林越しに小高い雪の台地が見えた。きょうのテント場はあそこしよう。分岐にビッケルで寝つても穴をあけて、分岐地点を明確にする。小刻みにビッケルで穴をあけながら、雪の小さな広場に降りた。

少し樹林が切れているので、空が見渡せて明るい。テントは空が見える明るい所に張りたいたいものだ。まわりの樹林を大きく入れてテント場の写真を撮った。山を楽しんでいる情趣がうまく出るように願いながら、きょうの行程途上の張りつめた緊張感が一気になごんでいった。

夕食が済んで外に出れば、雪世界は静かに夕闇を迎えていた。一番星がまたたき、枯れた倒木が白い雪の明るさのなかで浮え始めて、意味深長な枝ぶりを見せている。期待していた帳の声や息づかいを聞くこともなしに朝を迎えた。

快晴だった。雪が固くて足跡が残せな

歩き廻ってもぐらない場所を探してみるが、どこも同じ。暖までもぐりながら、深い青空と針葉樹林の黒崖山頂部を見上げて、しばし考えた。花粉症の季節で基礎体力がかなり落ちていた今は、少しの無理もこたえるから、あきらめることにした。黒崖山の山頂付近の地帯や花などの美しい見所は、他の季節にこそその価値があるので、その季節にもう一度訪れることにしよう。そんなふうに考えて、あきらめるように努力した。

雪をなやまして休める平地をつくる。ビッケルを寝かせてその上にザックを敷物代わりに置き座った。コーヒーをたてながら暖かな日差しを満喫する。下に続く美しいブナの足腰と、ぼんやり佇んだその向こうの下界を眺めた。信州の最北の、こんな高い所まで、この春に来ることができて、ほんとうによかったといった気持ちで次第に強くなってきた。

立ち去るのが惜しくて何度もふり返りながら、そして大きなブナの大を一度ずつ鑑賞しながら、散策気分での斜面をおりた。

きのうは何も聞かえなかったのに、風の具合なのか北側からスキー場の騒音が少し聞こえている。入山してからだれにも会っていないはずの山で、音楽に混じって遠くまで聞こえてくると、目の前の静かな雪の樹林帯がとて不思議な情景に見えたりもした。

テント場に戻る。一泊しただけでも、もうここは私の家という安堵感。山頂まで行かなかったが、釋れるまでの長い残りの時間は、ただただぼんやりするばかり。二日目ともなれば、ゆったりとし

い。ビッケルを小刻みな間隔で差し込みながら進む。穴の周りの雪が鮮明で心強い。尾根筋がはっきりしないので、風が吹いた時にビッケルの穴がかき消されそうな樹林の切れ目には、折れ枝に残り少ない赤布を付けて雪面に突き刺した。

ブナの大木が現れ始めると、にわかには明い雪の斜面に委わった。ブナの幹が雪の反射でいっそうまぶしく白く、その枝ぶりの美しさが青空に映えて見事な眺め。黒崖山に来てよかったという喜びが大きくなるいっぽう、赤布が底をついたことで緊張も増した。日が高く昇って元の斜面にも日が射すようになってきたので、雪に足跡がしっかりと付き始めた。きょうはおだやかな天気だから、気持ちに少し余裕が出てきた。やわらかな曲面の雪原に、くっきりと影を落とすブナの木、無数の枝の正なり。その美しい影模様をこわさないように影のない真っ白の部分に足跡を付けて行く。滑らかな曲線を揃くようにして、美しい足跡を付けて行くことを楽しんだ。

ところが突然、針葉樹林帯に達しようとする地点で、暖までもぐるラッセルになった。踏み跡をはずしたのかと思

**山の紹介**

「山の響き」

田端吉雄著  
テクニカル出版  
本体2500円

渓谷を通行して、源流の先の頂を照い、山々に分け入って、巨木に胸を轟かす。沢登りの達人によるスケッチと詩文集。  
(本書カバーより)

た時間の流れに身を委ねる心地よさが、ごく自然なこととなっていた。

赤布を回収しながら下山した。苗畑までおりてくると、二日前にあった雪がずいぶん少なくなっていた。北方には、登りの時には見えなかった妙高山が、青い大空のもと、くっきりと真つ白に鮮やかだった。

(平成9年3月30日〜4月1日歩く)

▲コースタイム▼  
黒崖駅(3時間50分)標高3800m 終点  
(6時間)標高1700〜1800m 終点  
▲地形図▼昭文社『12秒高・戸懸』

低山登山一本格トレーニングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの全日ほど更に割引します。

**とスキーのヨシミ**

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06(772)7231

JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってすぐ

# 雲仙普賢岳・阿蘇烏帽子岳・祖母山

## 九州

### 出口憲次

雲仙三山の主峰普賢岳と平成新山

平成2年、普賢岳の大噴火で溶岩が東側の島原市の水無川を流れ、流域集落に大被害をもたらした。我々山やにとっても自然パワリーの盛衰を忘れることはできない。この噴火で溶岩ドーム(コブ)が十五、六個も盛り上がったとも聞いた。

先の大戦中には北海道の洞爺湖群が噴火で盛り上がり、「昭和祈山」と名付けられ、今では北海道観光の目玉になっている。私も大阪万博の年に訪れたが、畑の中の赤い大きな岩ドームが蒸気を吹き出す活火山の姿を間近に見て、地殻活動のすこさに脅威を感じた。この昭和祈山と同様に普賢岳の噴火ドームは「平成祈

山」と名付けられた。

山の雑誌や九州の山やの情報で、普賢岳三角点までの登山路は、噴火の熱風による破壊の影響もなく、昨年から登山ができるとの確信を得たので、今回の遠征を企画した。

雲仙岳三峰とは普賢岳(1359m)・国見岳(1347m)・妙見岳(1338m)を総称する名で雲仙岳という個名の山はない(雲見岳もおんせんだけ)がなままと雲仙岳(へうせんだけ)になったとも聞く。

会員有志三名と長距離夜行バスを利用して熊本市へ、そこから船で島原市に渡り、タクシーを登山口の仁田峠に飛ばす。駐留地帯にある普賢神社の惣谷登山口

「平成新山」噴火ドームと左端普賢岳



に地元小浜町の建てた立ち入り禁止の看板がある。副谷の様子が不明なので、妙見岳から国見岳への支尾根でアザミ峠の鞍部に出るコースをとることにした。ロープウェイで妙見岳の頂上駅に降りる。ここにも妙見神社があり観光客がいっぱい。神社横の妙見岳への入り口にも同じ禁止看板が建つ。高層きして妙見岳の頂上へ着く。360度の展望で、北に国見岳、



東に普賢岳が目。紅葉の普賢岳の上、平成新山の白いピラミッドが顔を見せ、かすかな噴煙を上げている。妙見岳の頂上は我々四人だけ、小休止のあと国見岳への踏み跡を探すが、七人も人が入っていないので塵埃化しており、国見岳のルートまでやぶごぎでくぐる。九州まで来てやぶごぎせんでもいいのにと苦笑……。

すぐ妙見岳から国見岳への「九州自然歩道」に出て尾根道を上進する。九千部岳への分岐で長崎県の高校ワングル部のパーティに出会い、今年のインターハイ(高校総体)では、京都の人にお世話になったお礼を言われる。何んのお世話もしていないのに「京都北山クラブ」のバッチが目に入ったらしい。先生から副谷乗越への支尾根コースのアドバイスをうけ、国見岳への登り道をたどる。支尾根の入り口に道標もある。ともかく、普賢岳が第一目標だ。副谷・卑人谷の鞍部へ降り跡をたどりながら右の(開けた)人の道・

乗越の道標は「左風穴・右崩谷」とあり普賢岳へは無い。風穴・鳩穴を経て普賢岳のコースをと左をとった。センサー用の電線が道端に垂れ下がり、七年間の空白を示している。最近に踏んだ形跡もない。なんとか風穴の岩下までたどり着いたがどうもおかしいので乗越までバツタすると、二人の山やに会う。大阪からマイカーで来たとのこと。「副谷側の左に普賢岳の道標があります」と教えてくれた。「国見岳への入り口は？」と聞かれ、我々の踏み跡を登るシートを教える。「平成新山は人気があるなあ。」

の道標があり、下に普賢岳へと記されていてここが取りつき口だ。急登ワンビッチで一等三角点の理石のある普賢岳頂上に出る。

360度の大展望、目の前にはようやく活動も鎮まった平成新山の白い鏡峰と溶岩砂礫の茶色のスカートを広げたような姿。まだ所どころから湯気のようなうなごを吹き、大自然のエネルギーの偉大さに恐怖と畏敬を感じる。我々山やにとっでは、ただただ感嘆無量でこの景観はとても筆舌に尽くしがたい。溶岩ドームの先端は海拔1483mと測量され、普賢岳より124m隆起したと地元から聞く。

この絶景の頂上で昼弁当をとる。こんな饗宴も二度とないだろうし、この喜びは忘れることができないであろう。記念撮影後、副谷ルートを仁田峠へ、副谷は名の通りアザミの群生地であった。副谷の尾居のある二股の鞍部道にのり。左は普賢神社の奥の宮から普賢岳への道であったが、平成2年の噴火で奥の宮が消失、道も溶岩砂礫で埋まり通行不能の危険地帯とみる。右の仁田峠への道は幅広いユリ道、赤松谷の源頭沿いにつけられ



河原中岳より烏帽子岳を望む



色の温泉は万病に効くといわれる。外湯もあり宿泊費は山小屋より安かった。  
 東京後の11月23日に阿蘇中岳観光客が亜硫酸ガスで一人死亡、一人重体の事故が報道された。八甲田山・安達太良山でも死亡者が出ている。見えないガスは恐ろしい。(平成9年11月9日歩く)  
 \* 深田久弥の百名山【阿蘇山あそざん】は阿蘇五岳の高岳1592.2m△点を指している。  
 △コースタイム▽  
 草千里浜登山口―烏帽子岳―中岳―火口東駅(所要7時間)  
 △地形図▽3万5千―阿蘇山  
 △問い合わせ先▽  
 阿蘇山登山情報 0967(22)2500  
 民宿「なかもら」  
 0967(34)0317

日向と最後の園境・祖母山  
 火の国の山旅二日目、大分と宮崎の県境の祖母山へ、「R阿蘇駅発の一番列車で最後竹山駅へ。流原太郎の『荒城の月』で有名な園城のあった所。予約してあったタクシーは登山口の二合目駐車場まで運んでくれる。登り4時間・下り3時間

た遊歩道で、二段には環境庁の案内板もあった。30分程で仁田峠の駐車場のある展望台横の普賢神社前ノ宮の横へ出た。  
 (平成9年11月8日歩く)  
 △コースタイム▽  
 仁田峠―妙見岳―国見岳―前支尾根分岐―藤谷乗越―駒谷普賢岳分岐―普賢岳―駒谷―仁田峠(所要4時間)  
 △地形図▽5万―鳥取  
 △問い合わせ先▽  
 雲仙ガイド 0957(73)2345

阿蘇五岳の1等三角点 烏帽子岳  
 筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・薩摩・大隅・日向の九國の中心にある阿蘇外輪山の中に阿蘇五岳(穂岳・高岳・中岳・烏帽子岳・烏帽子岳)がある。高岳(1592.2m)が一番高い。三角点のあるのは高岳と烏帽子岳(1337.7m)の二峰で、中岳は噴火口からガスの噴煙をあげている活火山で、いつまた大爆發を起こすかも知れない。

オヤジさんが、きょうの中岳の噴煙の風向き状況を見て「噴煙持ちや心臓発作の人は、亜硫酸ガスにやられるから噴火口見物は止めといたほうが安全やで」と忠告をうけるが、烏帽子岳は方角も遠い安全圏内になる。草千里浜の右手にのびる尾根が烏帽子岳への登り道。  
 杵島岳を背に見て、北・西方面の外輪山壁を展望する明るいササとスキの青丈ほどの灌木の間は、地図にはないが判然として頂上へと誘導してくれる。火山灰の黒土は雨天の時は大変な道になるだろうがきょうは晴天。阿蘇地方もここしばらく雨が降らず、乾いた黒灰土に多少のお湿りが欲しいところ。草千里浜からゆっくり2時間程で烏帽子岳の頂上に着く。1等三角点の山だけに360度の展望。西に普賢岳・東に祖母山・北に久住山・南に国見岳と1等三角点の山々が遠望できる。ヘソの烏帽子岳だけに買戻ある眺めだ。地元福岡から来た岳人が外輪山一周ルートを一年がかりで数回にわけて完歩するというのが、眼下の外輪の山々の眺めもまたすばらしいの一言につきさる。

下山路は杵島のスキー場におりるコースをとる。踏み跡ほどの道で放牧の牛の糞や牛道がやたらにあり、方向取りスキー場におり着くのに手間どった。時間があるので火口西から中岳噴火口の外壁を一周、火口東のコースをとる。亜硫酸ガスの噴煙も少ないので草千里浜といふ砂漠のような道のない砂原を進む。目標の岩の壁の灌木をめざして進む、中岳からのびる岩の壁部へは三点確保の岩登りで縦線へ。そしてピーク1499.6mへ。この草千里浜コースにガスがかれば黒い砂原になり、ピーク1499.6mへ取りつくことは難しいだろう。左に大噴火口、右下に高岳、中岳からの視野を見ながらの後歩きは二十五年前の夢が達成できた。二十五年前は中岳東ロープウェイ駅から中岳西ロープウェイ駅までマウンテンロードがあり、噴火口沿いに歩いたが、その道は、その後中岳の大噴火で消滅して現在は跡形も残っていない。火口壁の稜線歩きは日曜日でもあり、たくさんのハイカーに会え、九州の兵入とも交流できた。

火口東駅からロープウェイで仙酔峡駅へ下山し、路線バスで坊中の阿蘇駅前へ。民宿「なかもら」の出湯に浸かる。茶屋

半の表神原コースをとる。

駐車場よりしばらく林道を歩くと、右の谷に池を見て左の山道に入る「九州自然歩道」。檜植林のユリ道で高度を上げてゆく、左下に溪谷が現れ雑木林にかわる。紅葉の季節の今が一番だ。溪谷にはナメ滝とか池が目を惹かせてくれる。大きなカエデの木の広場に着く。竹田



市が建てた五合目小屋、無人小屋で無料で利用できる。五合目小屋から谷を降りて尾根の急登、夏なら大変な登山だが、晩秋の冷えたこの季節の登りは汗もかかず通風特へ予定時間通り着く。区境を経て日向の山々が展開するが、名も知らぬ山々に親しみを感ずる。目の前に祖母の主峰が大きく見える。頂上直登コースをとる。溝状の道は繩柱がとけて火山灰の泥道に手こずる。40分程で頂上に着く。やはり展望は360度。周囲の紅葉の群山はただすばらしい一言につきる。下山路に九合目の小屋を見る。無人小屋ながらソーラーパネルと風力発電機を備えた小屋で、蛍光灯やコタツ掛けフutonまで備え、素泊料2000円で利用できる。小屋建設寄付金の奉賛者名簿の額に京都府でただ一人わが会の中村篤朗君の名があったのには驚いた。中村篤朗君の山への温かい思いを知った。

下山路には時間があれば、馬の背尾コースとか傾山線走コースがあるが、今回は国祝時に戻り、往路の神原コースを無事下山した。連えのタクシィでJR竹田駅前へ、予約してあった「一竹荘」に泊まる。

翌日は山なみハイウェイをタクシィで走り、九重連山の牧の戸崎から久住山群の香掛山(1533.33)に登り、また別府市西の鶴尾岳(1337.4)と、二つの三角点座を登り、大分港からフェリーで神戸港経由で帰京した。

3泊4日の九州火の国の山旅は「雲仙天草」「阿蘇くじゅう」の二つの国立公園に隣り、時間があればもっといろいろ山と出湯の秘境を楽しみたかったが、パーティーの皆さんにはそれぞれ仕事があり、またの機会にと火の国の山旅の幕を降ろした。(平成9年11月10日歩く)

\*山なみハイウェイは以前有料道路であったが、現在は大分県道になり無料になっている。

#### △コースタイム▽

- 二合目駐車場→五合目小屋 国祝時 祖母山→九合目小屋(往路) 一合目駐車場(所要7時間)
- △地形図▽2万5千1祖母山
- △問い合わせ先▽
- 九合目小屋 0974(47)2041
- 竹田市観光課 0974(63)4807
- 豊後竹田一竹荘 0974(63)2138

## 新ハイ例会・自然観察山行

# 三国山・赤坂山

夏山のハイシーズンにアルプスを歩くくらいで、ふだんは英語とその周辺の山域に通っている私にとって、三国山・赤坂山は、大げさに言えば、山行行動圏の西の果てになる。

歩きやすく花がいい。そんな情報を得て、平成8年のゴールデンウィークに車を出かけた。初めての山城への行程は妙に長く感じられるものらしく、一般国道で2時間半程度の距離だったにもかかわらず、アルプスなどへの旅にも似て、ひどく遠い地まで来た感覚であった。マキノ町へ入って少し道に迷ったが、白谷の集落から極井峠に抜ける黒河林道

## 鷺見守康

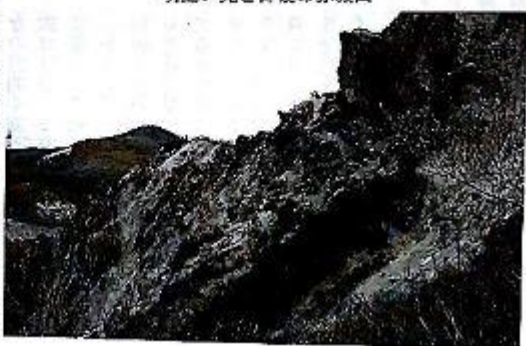
### 野坂

を走り、舗装が切れた所で車を止めた。このまま黒河林道の駐車スペースまで進入すると、そこはもう登山口である。けれど、花の季節なら、林道沿いの花を愛でながら歩くほうが楽しい。

林道沿いには日本海側要薬の草木が多く、スマイレサイシンなどのスマイレ類も花を咲かせている。しゃがみこんで花弁の色彩の美しさに見とれていたり、女性を含めた三人連れの三十歳代の登山者に声をかけられ、スマイレの名前を尋ねられた。一人の男性は図鑑を手にしていた。

標高約700m地点からオオバキスミレが所どころに姿を見せ、心のなかで唸ってしまった。この山はまさしく日本海の

明王ノ禿と背後の赤坂山



山なのだ。オオバキスミレが林道の縁を飾るなんて、心がウキウキしてくる。空は青く晴れ上がり、若い女性たちの華やいだ声が聞こえてきた。追いつくと、女子学生数人とその教師と覚しきかなり年配の男性のグループであった。道端の草花を夾にしていねいに観察しながら歩いている。

この冬は大雪だったので三国山のブナ

林には残雪が多く、登山者のなかに、赤坂山への縦走路は歩行困難だとの噂が流れていた。行ける所まで行ってみようと思われ、登山道沿いにカタクリが姿を見せ、やがてイワウチワとの混生となった。美濃の山では、春にイワウチワとカタクリの花期が重なることなく、カタクリの満開の時期には、イワウチワが花殻をばらりと落している。二つの花が満開で競演している光景は、実に見事で、湖北の横山岳山行以来である。

明王ノ禿付近では、あちこちにオオバケスミレが満開の株をつくり、赤坂山山頂からは琵琶湖が霞んでいた。

### 初夏

平成9年6月、新ハイ例登山行でとり



三回山・赤坂山付近地図

あげ、逆コースのマキノスキー場を起点に、赤坂山から三回山の周遊コースを歩いた。

参加人数は24人。JR湖西線のマキノ駅で集合し、バスで北マキノバス停まで行く。バスを降りると南方面に走る道は、メタセコイアの並木路となっており、その独特な風景は、北海道のような広大さを感じさせてくれる。

バス停からブタクサ群落のマキノスキー場を抜け、赤坂山登山口へ。登山口からは、アカマツを主体にした里山の風景である。

赤土の斜面を登る。林内には、ヤマツツジ・エゴノキ・タンナサワフタギなどの樹木が花を咲かせている。このヤマツツジの株はとも花付きがよく、オレンジ色で周囲をパッと照らしているかのようだ。ヤマツツジというのは、こんなに見事なツツジだったのか、と少々驚かされる。タンナサワフタ

が残っている。谷道を離れると、やがてブナ林となり、スクスクと育った白いブナの樹を仰ぎ、頬をなでる涼風に生きかえる思いがする。

「ポポツ、ポポツ」と鼓を打つようなツツドリと、名も通りのカッコウの音が遠くに聞こえ、飛行しながら鳴くホトトギスのさえずりが時々近く、鋭く響く。ホトトギス科の鳥たちの競演である。

夏栴檀からたどりついた赤坂山の頂稜部はイブキザナが群生する高原状で、視界が開け、パーティの足取りも怪くなる。冬の厳しい気候条件のため、樹木は矮生花し、ミズキも低木のまがいっばいに花を咲かせている。タカネミズキ(ミズキの日本海側多雪地適応型)と云ってもよいのだろう。同じミズキ科のヤマボウシ、そしてタンナサワフタギ・ヤマツツジの花も見られる。

11時40分、赤坂山(824m)に到着。天気さえ良ければ、琵琶湖の大パノラマが眼前に展開するのだろうが、梅雨期の曇り空でいまにもバラバラときそうな雲ゆきだ。風も強く、立ち止まっていると肌寒いが、大休止とし、昼食をとる。北には、これから向かう三回山が指呼の間

干は、秋には黒色の小さなきれいな実をつける。「フイー、フイー」と口笛を吹くようにウツが鳴いている。

時々、林内にはほのかな香りが漂う。ササユリであった。ボツン、ボツンと一株ずつ満開である。一株ずつだが、その存在感はずいぶん強いため、姿が見えるたびに、パーティからざわめきが起こった。

この例会から自然観察山行と名付け、山歩きを目的を宣言したのだが、24人も人数ではひとつひとつの花などに出会うたび登山道で輪になって観察するわけにもいかない。実際どういう方法をとればいいのか、実のところ私には成算がなかった。花を見るときは長い列のせいぜい前半分のメンバーにしか声は届かず、ハンドマイクでも持っていない、という愚案(？)もあった。

曇り空だが、けっこう蒸し暑く汗が吹き出す。台地状のブナの木平へは1時間を要して到着。ブナの木平から見る赤坂山のピークは、まだまだ遠かった。

ブナの木平から水量豊かな谷川に沿って歩くと、谷間にミソサザイの複雑な美声が響き渡る。付近には、昔の石壁の道

だ。

赤坂山からいったんくんだり、登り返すと明王ノ禿で、赤坂山山頂までのゆるりとしたのびやかな雰囲気とはうって変わって、アルペン的なガレ場の景観となる。このコースの最大のハイライトであり、撮影ポイントなので、メンバーは各々にかメラを構える。

明王ノ禿からくたると、気持ちのよい平坦な道となり、渡開を過ぎたベニマウダツツジやナラナドウゲンツツジの花びらが散っている。ベニドウゲンツツジの株はかなり多く、トンネルを作っている所もある。

ほとんどブナムナード気分でドウゲンツツジ属の群落を楽しみながら進むと、やがて三回山への道に分ける。時間的にも余裕があるので、左へと三回山の道を選び、雑木林のなかを行く。階段の急坂を息を切らして登ると、山頂(878m)である。

見晴らし抜群の赤坂山から来たせいで、樹木にさええさられ、視界の悪い山頂にはがっかりさせられる。記念写真を撮ってそそくさと下山。戻遊路に戻ると谷間に小さな流れがあり、休憩。湿地に目を凝

らすと食虫植物のモウセンゴケがあり、夏の亜高山帯にしばしば群落を見せるキノコウカも蕾を付けていた。

黒河峠までは、九十九折の長いくたりにある。峠付近で比較的まとまったブナ林に入り、前姿をつけてコマドリのようにさえずるコルリ、明るい美声のキビタキ、森の歌い手と形容されるクロツグミなど、ブナ林にふさわしい鳥たちのさえずりが聞こえた。

峠に降り立ったのは、14時半頃。ここから林道をひたすら歩くことになる。途中で林道は舗装道となり、白谷集落への道からふり返ると、明王ノ禿の雄姿が見事であった。

(平成8年5月3日・平成9年6月15日 歩く)

### 参考タイム

- JRマキノ駅より13(バス)北マキノバス停より30(スキー場登山口)・40(55)ブナの木平10・40(赤坂山)・40(昼食)12・20(三回山)13・20(黒河峠)14・25(白谷バス停)15・45
- △地形図V5万(数賀・竹生編)
- 2万5千(駄口・海洋)

連載

比良を歩く ③

# 打見山から南比良峠

秦 康 夫

シリーズ第3回は打見山が出発点となる。文明の利器ゴンドラで山頂まで運んでもらえば、あとは大した登りもない。南比良峠まで、ゆっくり紅葉の稜線を歩き、深谷道を琵琶湖側にくだる比較的楽な行程である。

JR志賀駅から「びわ湖パレオ前」までは江若バスで10数分。ゴンドラに乗り継ぎ、わずか8分で標高11000呎の打見山頂に着く。料金一人9000円は少し高い気もするが、これで高度差約8000呎をかせげるのはありがたい。われわれは総勢20名なので、ちゃっかりと団体割引(16名以上)を活用し、10%引きの8100円であった。

ゴンドラから眺める打見山東麓は、高度に比列するように、紅葉が鮮やかさを増してきた。これからの稜線歩きが楽しみである。

山頂駅から外に出ると意外に寒い。下界との温度差が6〜7度あるうえに、少し風も吹いており、何人かは早くもジャケットを羽織っている。参加人数の確認と簡単なコース説明を行い、9時35分スタート。

駅の少し上にある展望台の横から、道標に従って比良縦走路に入った。鉄製の階段が終わると、今度はリサのなかの階段状の急な山道となり、数分で天命水と名付けられた水場に降り立つ。

ストックの先でつっ突くと、ゆうゆうと草むらに入っていた。

道は打見山の山腹を廻り込むように北に進む。「まじ」ころの塔一の建つ展望のよい小広場があるが、休憩にはまだ早い。前回は濃いガスにじゃまされて視界ゼロだったクロットノハゲで、ゆっくりしようというのが、きょうの予定である。

縦走路から少し寄り道して、休憩場所に進んだクロットノハゲからの展望は、期待通りだった。

琵琶湖方面はもちろん一望のもと。この前はガスに隠れていた堂滝も目の前

に秀麗な山容を見せており、陸面の白いガレ場と紅葉のコントラストが鮮やかである。

西から北に向かってのびているのは、これからたどる南比良の主稜線。比良岳のあたりは、ここから見れば山頂がすっぽり取れてしまったような台形状で、黄葉の太い帯が真横に走っている。

秋たけなわの比良の景観を堪能し、縦走路に戻る。道はよく整備されており、支谷には木橋が架けられているが、右はスパッと切れ落ちた大谷川中谷左段の源頭付近。若干緊張を要する所である。



比良岳近くの大岩の展望台



ここからクロットノハゲまでは先月歩いたコースだが、木々の葉の色は一か月前とは横変わりのあでやかさである。その代わり、前目を凝ぼせてくれた、トリカブトの姿を見ることは、もうできない。

ロープウェイの下を通過するあたりの山道の真ん中に、蛇がトグロを巻いている。マムシかと思っただけ、そうではない。

木戸峠で一服しようと思ったが、けっこう風が強い。赤いだけ掛けの、四体のお地蔵さんに手を合わせるだけに、もう少し歩くことにする。いままでのところ登りはほとんどなく、全員快調な足取りで休憩の必要もないようだ。カエテの黄色にウルシの赤、シヤクナゲの葉の青、色を競う木々のなか、稜線歩きが続く。

水場から二つ目の道標を過ぎた所に、二体のお地蔵さんがあり、小広場になっている。ここで10分ほど休憩。

比良岳への登りが始まる。登る距離は短いのだが、実の飛び出した柴葉がいたる所に落ちていて、女性たちは柴拾いに夢中なので、隊列は遅々として進まないが、きょうはのんびり山行なので、リーダーとしても気をもむことはない。両手が一杯になるほど集めた人もいた。ゆがいてそのまま食べてもいいし、ゆがいてから乾かして皮をむいて、黒豆と一緒に煮ると美味だそう。

11時、10511の比良岳に到着。名前からすると、比良山系の代表格のようにも思えるが、クロットノハゲから台形状に見えたのとおり、何の特徴もない縦走路

## 山と高原地図シリーズ

定価 各200円(税別)

1 北アルプス地図	34 徳島山
2 白馬岳	35 朝日・御三山
3 穂高岳・奥穂高	36 奥穂高
4 朝立山	37 富士・御三山
5 上高地・信・穂高	38 南岳・早池尾
6 穂高高原	39 八幡平・妙高
7 御嶽山	40 十和田湖・磐梯湖
8 中央・南アルプス地図	41 ニセコ・羊蹄山
9 本槍山・空知岳	42 大雪山・十勝岳
10 甲斐駒・北岳	43 白山
11 奥只見・磐石・磐前	44 奥只見・磐前
12 妙高・戸隠	45 磐前・磐前岳
13 志賀高原・草津	46 比羅山系
14 軽井沢・沢村	47 赤城山1
15 西上野・妙高	48 赤城山2
16 奥只見・奥只見	49 奥只見山
17 八ヶ岳・穂高	50 北沢の山々
18 富士・富士五湖	51 六甲・翠石・有馬
19 磐梯	52 奥只見山・二上山
20 伊豆	53 金剛山・岩手山
21 丹波	54 紀伊半島(伊予)中
22 高尾・桂馬	55 奥美濃(伊豆)
23 大菩薩温泉	56 大峰山系
24 奥美濃	57 大峰山系・大峰山
25 奥美濃・伏見	58 奥美濃・奥美濃
26 奥美濃1(奥美濃)	59 奥美濃・奥美濃
27 奥美濃2(奥美濃)	60 大山・霧山高原
28 谷川岳・奥美濃	61 奥美濃山
29 奥美濃山系・奥美濃	62 石狩山
30 奥美濃	63 奥美濃の山々
31 日光・奥美濃	64 九重・阿蘇
32 奥美濃・奥美濃	65 阿蘇・奥美濃
33 奥美濃・奥美濃	66 奥美濃

※昭文社の「山と高原地図」は年度別として毎年再版発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご活用くださいませようお願いたします。  
※昭文社の「山と高原地図」へのご依頼・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお電話にてご連絡ください。また新編等をお知らせいただければ幸いです。

## 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(326)2141(代) 〒102  
支社 大阪市東区西中島5-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532  
支店所 札幌・仙台・横浜・千葉・福岡・立川・新潟・東京・名古屋・京都・広島

上の一連地点で、標高がなければ、通り過ぎてしまう所である。比良の名に敬意を表し、「ここでも少し休憩」。

比良岳から少し歩いたところに、琵琶湖側に張り出した大きな岩がある。展望がよさそうだと、とうとうと、たちまち勇敢な女性が二人、よじ登って上に立った。「絶景! 絶景!」と誇うが、男性はだれも後に続かない。女性たちのほうが元気なのは、いつもの通りである。

粟川越へのくだりはかなり急だ。虎の皮模様のロープを頼りに慎重におりる。

坂道の途中左手に、胎内くぐりのできそうな、狭い隙間のある大きな岩が目についた。おもしろそうだからだれかやってみないか、と声をかけたが、さきほどの岩と違い、今度は女性も試してみようとはしない。勇敢な女性たちもサイズには自信がないのか……。

もったいないほどのくだりがやっと終わり、粟川越の峰に到着。一服する。

昔は、この峠越えは、安曇川川の牛こバから琵琶湖側の大物まで、炭や薪を運ぶ重要な生活道路だったそうだが、今は感れて見る形もない。

昨春秋、ここから大岩谷左股沿いに旧道らしきものを琵琶湖側にくだってみたが、ブッシュと隙間おに行くと手をばげま、ルートファインディングに苦勞して、中谷山合に出るのにかかりの時間を費やした経験がある。

鳥谷山へ、きょうのコースでは唯一の本格的な登りが始まる。汗をかいて10分ほどがんばると傾斜がゆるやかになり、これで登りは終わりかと思ったが、鳥谷山はもうひとつ向こうにあった。

頂上間近の、右へ少しルートはずした所にお地蔵さんがあり、絶好の展望台

になっている。琵琶湖の水がキラキラ光って美しい。蓬莱山から打見山、その下方の白い斜面は、さきほど休憩したタロトノヘゲだ。

鳥谷山の三角点へ行くには、縦走路がくだり始めた所の道標を左に登ればよい。灌木帯の中に小道があり、107.6mの三角点までは、もの1.2分である。頂上は狭く、四面灌木におおわれて展望もあまりよくない。

12時過ぎ、荒川峠通過。峠から5.6分歩き、縦走路からそれて琵琶湖側に少し入った疎林の中に、ちょうど良い場所が見つかった。ここなら多少さむがしくても、他の登山者のひんしゆくを買ってこたはないだろう。三々五々、落ち葉の上を脱をおろし、にぎやかなランチタイムの1時間はあっという間に過ぎてしまった。

午後の部は登りはない。野食場所から10分ほどで南比良峠。琵琶湖に向かっての長い深谷のくだりが始まる。両側にナナと雑木の茂る歩きやすい道がしばらく続くが、これも、左に堂渡岳両面のすこいガレが現れるあたりまでで、あとは懸崖の連続である。崩壊で旧道が消えてし

まっている所もあり、右側に大きく高橋く道が付けられている。

石のゴロゴロ音が荒れ道中、ジグザグを繰り返しながら、深谷に向かって急なくくだりが続く。二三日の奥美濃所をしかかり、道の端からこわごわのぞくと、削れた崖の中央に、谷に頭を向けて大きな木が根こそぎ倒れているのが目に入る。

道はますます悪くなるが、ありがたいことに、危険箇所にはロープが張られているので、大助かりである。ロープに全体重を託すのは避けて、片手でつかんでバランスをとるながら、慎重におりる。延べ10数本のロープのお陰で、やっと右立派大の深谷小原の所までおりてきた。後口聞くと、このくだりで、太腿が2、3日痛かったという人が何人かいた。

懸崖の上流の中州でたき火をしているグループがあり、傍で一服さまでいる。拾ってきた葉をいくつか、たき火に放り込むと、しばらくしてボーンとはじけ、アツアツの実が飛び出した。みんなで少しずつ試食する。け、こうおおい。

河原にはロモギが密生している。1は

ほどの丈になり、花穂の垂れ下がった様子は、巨大な稲のようだ。ヨモギとは、よく燃える草の意だそうで、早速とってきて火にくべたが、なるほどよく燃える。モグサの原料にするだけあって、溜う香りはお灸そのものである。

ゆっくり休憩し、あとは堂渡小屋の前を通る広い林道をのんびり歩いてJ.R比良駅に着いたのは16時ちょうど。登りが少ないうえに、時間の余裕があったので、今回はやや遊びの多い山行になってしまった。

(京都北山グループ例会、平成9年10月12日歩く)

### ☆コースタイム☆

打見山(25分)タロトノヘゲ(20分)水戸峠(30分)比良岳(15分)鳥谷山(20分)鳥谷山(15分)荒川峠(20分)南比良峠(1時間10分)深谷小原(1時間20分)J.R比良駅

△地形図V2万5千1:2.5 北東山

昭文社「146比良山系」

## こだわりの山岳登頂

坂井久光

登山の楽しさを享受するには、いろいろな方法があるが、何かにこだわるのも一つの方法である。私は今西博士の「十二支会」に入会しておもしろく思ったのが、こだわりの山行である。

「十二支会」は御存知の通り、千支に因んで、子・丑・寅……とその年の干支の名の付く山、例えは千年なら子ノ泊山(一等三角点)へ一同に登頂し、その年の参運を祈り、還暦(丑歳)・古稀(寅歳)・喜寿(卯歳)・傘寿(辰歳)・米寿(巳歳)・卒寿(庚歳)・白寿(辛歳)・百寿(壬歳)等を一同で慶祝する会である。

そこで、私は1月から12月まで月の数字に因む山をシリーズで登った年もあった。

るが。

一週制がりに山脈から帰宅するや否や、山の神宮、「山と生活とどっちが大事か」と稗面の愚。とうとう来る日が来た感で、下手な返事をすれば一家離散ともなりかねない緊張が漂っていた。しばらく思案にくれて、ちよと平重盛の「寒ならんと欲すればはなならず」の心境でいると、益々攻勢に出られ、「早く返事を」と迫られる始末。こうなったら仕方ない、ヤケクソでどうにでもなれ、「どっちも大事だ」と本音で返事した。それを聞いて山の神「マホカ」の心と「山を言っておき返った」。

その時の表情から察するに「こんな扁鹿な人と仲人につられて結婚するのではなかった」と感みとれた。

以後、山に因しては何も言わなくなった。おまけに快晴の休日何かの用事で在宅していると、「こんな良い天気なのになぜ山へ行かぬか」とヤケになりだす始末。こんな冷感状態が長く続いた。

昨年、1等三角点の山々を完登したことが新聞に報せられるや、近所の山の神々から「またお宅の主人の記事が報じていた」と言われてから、天狗でも改心した

た。1月の一ツ山(箱路)から始め、10月は十方山(正徳)に、当時広島女子大教授の桑原良敏氏(西日本の山)の著者・日本山岳会々員に案内していただいたことがあった。また週にこだわって日曜日からは十曜日まで、例えは日出ヶ岳(大台ヶ原山)・火山(岐阜)・水井山(化叡山)等である。

単純なことかも知れないが、いちおう完登すると満足感が得られ、新たなファイトも生まれる。

1等三角点のある山々の巡拝もこの類に入るのではなからうか。また1等三角点是全国に平均的に存在していて、まるで戦国大名になったつもりで、近畿の1等三角点(山と溪谷社・分県登山ガイド)の京都山(40度参照)こともあり、嶺でも反響する時代だから当然かも知れないが、それから態度が変わり、扱いが少しだけよくなった傾向にある。

昭和五十年頃から職場の京都市交通局は転機を迎え、市車を買って市バスに切り替え、ツーマンからワンマンバスに変わった。いわゆる人員の合理化で、一般職員(組合員制)にとって赤字の責任はないに等しく、原因は独立採算制の導入と自動車産業育成の政治的な施策によるものと思っていた。

職場でも休暇の制限が厳しくなり、好きな登山もままならぬ状況で、早く退職して自由な時間が欲しかった。

この頃(昭和五十一年)の思い出の一つは、久しぶりに今西博士から声を掛けられ、九州の山へ行つたことである。無理ながら休暇をとり、関西(船)で別府へ行った。最初に登ったのは国東半島の最西端峰面子山(721.1)で、次いで大分市の日本山岳会員西原氏の案内で、雲ヶ岳(695.4)に登った。安心院町で一泊し、西氏のおごりでスッポン料理を御馳走となった。翌日、海蔵山(758.6)に登

両子山山頂



等三角点を完登したら、近畿(定)・中国(四国)の山々を完登したら、四国(往)・中国(平定)とする。地図には登った山々をマークして、占領地域(国見)した地志が拡大するのを楽しむのもおもしろいと思つて登頂に励んだ。

山行が増えるにつれて、家庭生活が疎になる。いわゆる二律背反現象が起こるのは、自然のしからしめるところではあ

り、小倉駅で博士と別れ、一人で足立山(598.6)に登って帰京した。

当時、冬期は四国か九州、他の季節は関東・中部の山々を登って過ごした。

四国の名峰剣山(1955.6)は138番目に登った山だが、山頂にソロモンの秘宝が埋蔵されているとの伝説があり、信仰の霊山でもある。

石畑山も名山で、アケボノツツジが美しく咲いていたが、1等三角点はその西にある二ノ森(1929.6)にあった。ちなみに石畑とは石の神霊の意で、「ツ」は格助詞であり、「子」は神(心)靈である。カグツチ(火の神)・ミツチ(水神)・ノツチ(雷神)の例でお判りいただけよう。

その後、九州の久住山(1787.6)に登り、次いで二重メサ(単状地形)式火山の万年山(144.6)に登った。メサ(スペイン語)とは地下のマグマが大壘に押し上げて冷えて点状に凝結したものを言う。付近には同型の岩屋山等があり、わが国ではめずらしいが、外国には数多くあるとか。

5月に登ったが、平坦な山頂は牧場になっており、ハリンドウがたくさん咲



いていた。久住山付近の由布岳周辺もキリシマツツジの群落で有名であり、花の頃は壮観である。

その頃「十二支会」を取材中の「週刊朝日」の記者・穴吹氏が、私が一等三角点の山ばかり登っているのを知り、カメラマンを連れて取材に来られたことがあった。地元鹿石山の一等三角点地蔵山(948m)を、友人の鈴木氏の車で八木町から越前に入り、谷筋をつめて登った。その記事を見た「日本経済新聞」の記者・白蘭氏が、当時土曜日に連載されていた「マイライフワーク」の取材で来訪され、比叡山や鷲峰山へ案内したことがあったが、それが記事となり、北海道深川市の市会議員で深川市山岳連盟会長の田中利一氏の知るところとなった。

「私の家は百姓で食料豊富だから一ヶ月でもかまわないから来訪してほしい。近くの入鏡月峰(音江山・796m)・一等三角点を案内するから」との手紙をいただいた。

その後「一等三角点研究会」に入会した田中三郎氏は同記事を読んで私を知り入会したとか。彼は「日本二百名山」や「一等三角点百名山」も登った元気な老

人で、昨年総理府出版の「エイシレス・ライフのすすめ」に掲載された深田クッブの会員でもある。

1等から3等三角点の山を600番目に登ったのは午年に「十二支会」で九州の馬見山(978m)に登った翌日であった。私が美奈山(1200m)・三香山の二つで修験道の霊山に登ったところ、三角点に原酒「太平洋」一瓶があり、六百山登頂祝(新宮山麓グループ・玉岡)と記してありびっくりりさせられた。玉岡氏は銀行員で、一八〇〇万円も寄付を集められて大峰山脈の行仙山に山小屋を建造された立派な尊敬すべき岳人である。昨年(平成九年)も今西博士の千五百山登頂記念碑を白鬚岳に建てられた(11月23日)。

私もその頃五十歳を過ぎ、当時の定年が目前であった。皆がマイカーを買って登山に行くようになった頃でもあり、高年ながら教習所に通い、免許証を入手し、中古のジープを買って走り廻っていた。しかし、京交山岳部の部員があまり利用しないので、売り払ってスバルの軽自動車の新車を購入し、丹波の山々を登ったりしていた。

### エリア別 徹底研究 近江側から登る鈴鹿の山々

#### 鈴鹿の池を探访する山旅(二)

## 鈴鹿山中に点在する池をめぐる

山本久雄

大野評(?)の前編に続き、今回は鈴鹿山中の各地に点在する池を案内します。

やはり2万5千分の1の地形図を用意してください。訪ねる季節は初夏のやぶが生えこむ前が、日も長くなり、雨も始まった若葉に体を染めて足どりも軽く気持ちよく歩けるのでおすすめです。

もともと、水量は少なくなっています。葉が枯れ落ち雪のくる直前の初冬のドリツとした寒さのなかで、真の青な空を映す水面上にパッパのフルートソナタを聴き、哲学を思索するのも悪くありません。

一部岩野氏のガイドと重複する山域がありますがご容赦ください。登山のさい

はコンパス以外に高度計があれば地図が読みやすくなります。また、前回と同様に一部を除き、はっきりとした登山道はありません。

#### 静ヶ岳周辺の三つの池

まず地形図「磁ヶ岳」を広げよう。ちょうど中央部に標高1088・6mの三角点がある。美しい三つの池をめぐる「静ヶ岳」だ。はっきりとした登山道のある次川・治田峠・セネオノコバからがポイントだが、ここは友人好みの流いルートとして茶屋川から訪ねることにする。

紅葉尾八風街道・次川林道と走り、奥野のヘリポート跡からトンネルを越え

ある日、大慈山の管長佐藤昇道師を訪問し、花背峠を越え燗宅の途中、京都バスの後をついて走っていた。途中でバスが止って先に行けと番号を出したので、急坂カーブ道をブレーキを踏みながらくだった。ところが最後の峠下のバス停車前の急カーブを曲がりきれず、ガイドの間から急斜面をゆっくり滑るようになり、杉の木で止まった。助かったと人心地ついていたところ、この事故を見たバスの中から、昔白山へ美大教授の奥村画伯といっしょに登ったことのある弟子の新道さん(美山町在住の建築工芸家、日本山岳会々員)が探しに来て、「坂井さん」と呼んだのにびっくりした。

このことがまたしても山の神の道徳にふれて免許証は取り上げられ、車は廃車処分、引き上げに十万円かかったと言っ

そのうえ事故のことが一日で口うるさい京室の山男の間に伝言され、電話がかかってくるやら、会うたびに事故の話が聞かれたり、酒の肴にされるありさまで、以後ハンドルを持つことはなかった。

幸か不幸か、登山の数は減ったが、車に頼らず、脚で登る山が多くなったのが、現在の長寿につながっているのではないかとと思う。

静ヶ岳両方の池



ると林道は橋を渡り、左岸を走るようになる。少して右岸に渡り返す。そのまましばらく走ると又川谷を対岸に見て左岸に渡り返すので橋を渡った広場に駐める。

目の前の急傾斜の屋根に取りついて、思いのほかやせた屋根を向南東に向かい、高度500mあたりまでニイェイッと登る。初夏ならギンリョウソウが咲いて



太尾の長池

いる。二次林のなかの少しゆるい登りも少しゆるく、ピーク8230ftである。

一息ついて再び

尾根が急傾斜になる所で北東へと向きを変え、急登しはらくて傾斜もゆるくなるがそれも束の間、再びぐんぐん登りだす。5分ほど展望が開けると、ピーク8140ftである。ここまで登り始めてから約1時間程度でたどり着ける。ここから北北東へ向きを変えた尾根は、さらに傾斜を増して静ヶ岳の肩にあたるピーク1047ftまで続く。

ピーク8140ftからピーク1047ftまでは苦しい登りを30分程がんばれば十分だ。目の前には静ヶ岳の二つのピークが立ちふさがっているが、歩きやすそうなのを選んで尾根稜線ははずさないように前進するのみ。あまり展望のさかない

ピークを次々と越えて行くと、林道を出発してから約2時間少々で狭い切り開きの静ヶ岳の三角点に到着できる。

ここからは足元もはつきりした登山道となる。10分も歩くと左手に主稜線をゆく縦走路が近づいてくるので適当に左におりると、太尾谷の源頭の美しい湿地帯が広がる。池を配したセキノコバである。ここで昼食となるだろう。

静ヶ岳と美しさを十分堪能し、緑のシャワーを体いっぱい浴びたら縦走路を電ヶ岳に向かう。ピーク1008ftの次のピークの手前の鞍部が、地図でもはつきり分かる通り二重山峻になっている。この谷間に人の知らない一つの池がある。通過する縦走路は稜線より少し東側下方の三重稜線をゆくので気づく人はまずいないと思う。

静かな池畔で気のすむまで過ごしたら静ヶ岳へ戻る。三角点からはまずコンパスで磁方位を確認して、朝に登ってきた方向とはちょうど直角左手となる北北西へとくだり始め、距離にして1000ftくらいで北西へと進路をとり、ピーク881ftをめざす。この北西尾根にのるのが次の池へのポイントとなる。いったん尾

根にのってしまえばあとははつきりして

いて迷うことはないはずだ。イワカガミの群生のなかには比較的やぶも少なく、傾斜はきついが歩きやすい尾根をたどり、山頂から約25分で傾斜がゆるくなり、尾根が二重山峻となる。ここは左側(南側)の尾根をたどる。右側の太尾谷へのびる尾根につりこまれやすいので注意しなればならない所だ。ここはピーク861ftの手前付近だと思おう。

あちこちにヌク場があり、塗本の一ページをはめこんだような雑木林のなかをゆく。ピーク861ftを越えたと再び尾根は傾斜を増すが、5分ほどくたると急斜面の下にかわいい池が見えてくる。航空写真を撮ったわけではないので正確な場所を断定するのは控えるが、ピーク861ftの次の針葉樹マークのある高度840ft付近とみている。

鈴鹿の岐阜県ともいへばこの場所、訪れる人を持つこの池のほとりでコーヒードも飲みましょうか。私は一人で訪れたことはないが、一人ならどんな気持ちになるのか一度訪れようと思っている。次はいつ会えるのか?。愛しい人と別れるような去りがたい思いを残してこの場所

をあとにする。

高度700ft付近から尾根は判然としなくなるので、地図上の大きく茶屋川にとびでている部分をめざして西北西、弱北西に進路をとる。池から約40分林道のガケに突き当たるのでおりられそうな場所を探して適当に飛びおろす。

または太尾谷寄りの尾根をたどり、茶屋川と太尾谷の出合をめざしてもよいが、中央の谷状の部分ほとんどない急傾斜



静ヶ岳周辺の池  
太尾の長池付近地図

で通行はたいへん危険である(落石、木遣等)。

あとは林道を30~40分頂張れば車へと降り着ける。休憩を含めても約6時間弱で静ヶ岳の二つの池めぐりは終了する。

太尾の長池

さて次は又尾谷をはさんで南側静ヶ岳、太尾の長池を訪ねてみよう。地形図は「電ヶ岳」電ヶ岳から黒線稜線を南西にたどると石崎峠への分岐で、黒線縦走路は南に向かうが、そのまま西へ続く尾根をたどると高度860mのピークがある。さらに南西向きを変えるとガレのマークが点在するが、その先鞍部を挟んで770ftのピークがある。さらに西にゆく距離に

して約700ftで尾根がゆるくなっている場所がある。長池はここにある。ここへはゆっくり山にかけても時間は十分あり、高度差も300ft程しかない。長池のほとりて観音などでのんびりと過ごしたい。

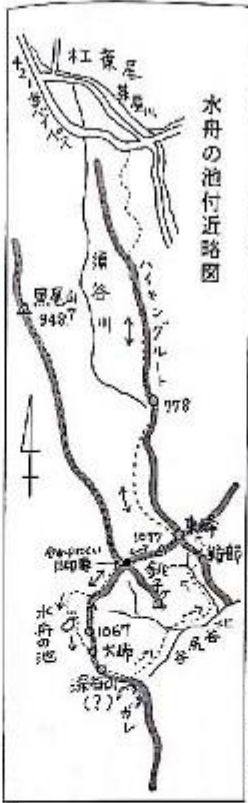
前述の焼野のヘリポート跡で車を止め、南側にある目の前の尾根を適当に上に向かっただけで登って行けばよい。登りだしてから1時間もかからずに主稜線へたどり着ける。ここからは樹林帯のプロムナードを気分よく20分も歩けば、ゆったりとした尾根に長々と長池が横たわっている。のんびりと持ってきたものを煮たり、焼いたり、炒めたり、ちよっとテピリと、たまにはゆっくり食事を楽しまう。これこそ究極のグルメかも知れない。この先少々ヤサがるさいが、10分程の所に770ftのピークがある。このピーク北側の針葉樹のマークのあたりにヌク場が広がり、池もあるという報告をもらっている。食後の腹へらしに散歩がてら探してみるのもよいだろう。

帰りはもと来たコースをたどるつもりなら、登るときに各尾根の分岐に目印をつけておくのを忘れぬようにしたい。



三角点を越え、黒尾山からの尾根にのり。さらに南西にルートをとって、1067がピークの手前鞍部へと向かう。この鞍部で右手へおろるのだが、あまり谷を這わないようにして左方向にある小さな尾根を意識してたどって少し左手に歩くようにすれば、杉林を過ぎた所で目的の水舟の池への到着である。

以前は開けた場所だったが、積林が大きく成長し、あたりはずいぶんうっそうとした雰囲気になってきた。1辺50分は超えるであろうが、三角形の大きな池で、たぶん鈴鹿山系最大の池と思われる。あまり大き過ぎるのと、まわりが大部分植林なので意外と開放的であり、しっとりとした気持は余り感じられない。しかし流れ込む川もなく、流出口からはしみ出るように水が流れ出し、しかもいつ来ても



も澄きった水を満々とたたえていて、自然の不潔さを考えさせられる池だ。帰りのルートはそのまま帰らずに、池からまっすぐ南東へ向かうと、10分もあれば1067がピークの南の大峠へと登り着けるので目の前の深谷山1009が訪ねるとよい。大峠、1067がピークを越えてもまたルートを通る。深谷山から登山口までは2時間少々みれば十分。9時頃登山口を出発すれば15時頃には戻る。

足に自信があり、ただ滞るのもつまらないと思う人は、さらにイブネに続く尾根を少したどり右手のガレの頭の鞍部から北東に北谷尻谷におりる。20分、30分で高度830あたりには着くので左手の谷に入る。鎌子ヶ口東峰直下1076・8の八の字の南側鞍部をめざすため

ある。この入り口は分かりづらく、木の枝を不自然に組み合わせて目印としたが残っているかどうか。ここは高度計に助けられながら読図力を最大限に生かそう(腕のみせどころ)。谷をたどると入り口から30分程で谷が左へと向きを変える場所に着く。このあたりで右手を見るとすぐ近くに鞍部がある。鞍部から急登少しで東峰に着く。ガレの頭の鞍部から高度差200分を登りおろすハードコースだが、深谷山から東峰まで1時間30分もあれば十分。あとはハイキングコースをたどり、1時間ほど遅くなるが16時頃には登山口に帰ることが出来る。

以上で遊覧から訪れる鈴鹿山中の池の紹介は終わります。この他に三国峠グイラの北方597がピーク付近の池、三池岳東方の池、今葉谷上部、ボンテン西方のアメツボサマ、柏原道四合目からコエドに向かう尾根上の池等がありますが、いずれも岐阜県、三重県側からのほうが取りつきやすいので割愛します。今春からは岐阜の山田氏と雲仙山の池を探す山行を始めてみます。詳細がまとまれば報告することにしましょう。

## 糸我峠越を歩く 熊野街道探索 (紀伊宮原駅〜湯浅駅)

コースタイム 1.25 和歌山駅(乗車35分)紀伊宮原駅(90分)1.25 湯浅寺(15分)2.00 糸我一里塚・稲荷大神社(90分)3.00 糸我王子・糸我坂(2時間)4.00 池川王子(15分)5.00 熊野街道(1時間)6.00 湯浅寺(乗車35分)7.00 和歌山駅(徒歩約15分)

### 中村敏文

① 有田川・宮原の渡(有田市糸我町) 宮原駅から東へ15分も歩くと、糸我の道から南下する熊野街道に出る。右折して近世の南村新町の有田川宮原の渡し場へは15分もかからない。

② 熊谷山得生寺(糸我町) 中番の国道42号線の道標から右折して南へ行くと、中將姫寺とも言われる得生寺がある。

③ 糸我一里塚・稲荷大神社(糸我町) 得生寺から熊野街道へ戻り、南へ向かうと糸我一里塚跡の標示がある。江戸初期に紀州藩が参勤交代の街道として整備し、和歌山城より五里の糸我に道を決んで東西に塚を設けた。

④ 糸我坂(昔は有田市・湯浅町の境) 中番の集落のはずれから千川へ越す。5分坂は糸我坂で、みかん畑のなかに奥打坂という徳原への坂路に糸我王子跡



熊谷山得生寺

路越坂で西塚も削られ、昭和六十年に発掘調査をして西塚が現状に整備された。一里塚のまらに池川王子、西村・須谷の摩土神である稲荷大神社がある。本殿は倉稲魂神の稲荷大神をまつり、隣に土御祖神・大市姫神をまつる。日本最初の稲荷は糸我の稲荷だと云われるのは創建の古さで、五化天皇時代に高山中腹に稲荷坂社がまつられ、孝徳天皇の白雉三年(647)に山麓へ移し、稲荷社に改める。京都伏見へ稲荷神が降臨したのは、その後の和暦四年(711)なので当社のほうが古い。

がある。糸我王子社は明治末に水王子とも通称大神社へ合祀された。

「近代過ぎて糸鹿の山の桜花散らずにあらなむ掃りくるまで」と、『万葉集』に詠まれた糸鹿山は平安時代も熊野詣での貴族たちの歌社となっていた。足代(安齋)は有田の旧名で安齋親王(皇城天皇)が即位すると天皇に敬意を表し、有田に変えたという。

『平家物語』に上白河院が「いとが坂」で御喪を留めて休息したとある。『中右記』の著者藤原宗忠も宮原荘に宿をとり「伊止坂」を登っている。西行



法隆も「糸我山時雨に色を染させてかつかっ線れる錦也けり」と『山家集』に残している。本居宣長の『鈴屋歌集』の詠歌に「春くればいとかの山の山桜風に乱れて花ぞ散りける」とある。

糸我坂を登りけると糸我峠で、付近はかなり開発が進められ、ゆるやかなみかん山になっている。有田市と湯浅町の境界であるこの時から長い下り坂を、ほど遠く吉川で、山越えで海岸に近い熊野寺方面への分岐路の手前に逆川王子神社がある。

⑤ 逆川王子神社(湯浅町吉川(中庭))  
逆川王子は「中右記」に「次、坂は逆河王子許幣本」と記され、「御鳥羽院熊野御幸記」には「いとかな山、下山の後、參サカサマ王子」とあり、平安時代からの王子である。

山田川とその支流は西へ流れるが、王子前の三尺幅の小川は東へと流れるので、王子の名称も逆さまに流れる川にちなんだと思える。

江戸時代には吉川村の産土神として地蔵堂もあったようで、「昔は王子免、地蔵免という田畑五段ありしに、豊臣政綱下で湯野氏領となり没収せり」とある。

近世の逆川王子社は明治末に直線でも一里も離れた田村の國津神社に合祀され、その後吉川の人々は跡地を整理して逆川王子神社として規模小さくして再建した。

熊野街道は糸我峠から山田川に至る4.5以上の吉川地域を南北に過ぎるので、街道から5.5以上も離れた著名な地無畏寺への参詣は時間的に無理である。

地無畏寺は湯浅町枯原の白上峰の西山麓にある御室派の真言宗寺院である。平

安時代の湯浅の名族、湯浅宗重の孫の景基が、明恵上人が若年の頃に修行したという白上峰の麓に一寺を建立し、宗重の明に当たる明恵に寄進した。崇仏を背景にした湯浅党の団結を象徴する大寺でもあった。

鎌倉・室町時代には六坊を擁して繁栄したが、天正年間の兵火で焼失し、近世になって紀州藩主徳川頼宣が大寺の宏微を惜しみ、明王院・地蔵院を再建する。

逆川王子神社から南へ吉川の集落を抜けると人家のない方津戸峠越が約2.5、山田川の手前で税務署・暖安・郡民会館などがある北湯浅の町に入る。



地無畏寺

山田川を渡ると熊野道は四座へと半円を描いて南下するが、東へ先の羅國神社へ参詣するため、中湯浅を国道42号線へと向かう。

⑥ 羅國神社(湯浅(大宮))

国道を少し南下して大宮通へ入ると、有田郡第一の大宮であった羅國神社へ着く。平安末期に湯浅宗重が湯浅一族の守護神として日の大國主明神を勧請し、国主神社を創建した。湯浅氏の繁栄とともに有田郡第一の宮と栄えたが、湯浅氏の衰退とともに衰えた。

徳川頼宣が紀州藩主となると、由緒ある神社の保護を治國の方針とした。当社も頼宣大明神の社号を贈られ、藩籍の季梅溪に鳥居の扁額を書かせた。その後も藩代藩主の崇敬を受け、湯浅・別所・青木・山田の原土神として祭祀されていた。

祭神は当初から大日靈命(大國主命)で、明治には村社に指定され、旧湯浅村の氏神の諏訪大明神と久米直王子社を合祀する。広い境内を保持し、摂社若宮神社の例祭には御輿の渡御が盛大に行われる。

⑦ 湯浅町内(湯浅町湯浅)

古い熊野街道は逆川王子より逆川沿いに東の山麓へ出て別所へと南下していたが、近世には海瀬古の街道に近づけるため、逆川王子より南西寄りに道筋が変更された。

湯浅の町は近世後期に十四町に区分された。熊野街道は道町四町半、島内の三町の七町半の南北の通りで、商家・旅館が立ち並ぶ宿場を中心となり、四方の御坊に匹敵していた。近世の湯浅領の戸数は1250戸、5550人が登録され、八世紀の昔から地方への販売網を確立していた湯浅醤油は株仲間もなっていた。その他に金山手味噌や魚網の製造も盛んで、大きな問屋も点在し、現在も熊野街道筋や町場の各地に近世の立派な町屋の建物が現存する。

熊野街道は境内の南端で、川端横町を東進して湯浅駅の南に出る。私たちは駅へ向かうが、街道はさらに東進して国道42号線に至り、南下して高城山の西山麓へ向かう。吉川町・日湯町を経て日湯川を渡り、御坊へは四里近くの道のりである。

# 古市から誉田陵を訪ねて

松永恵一

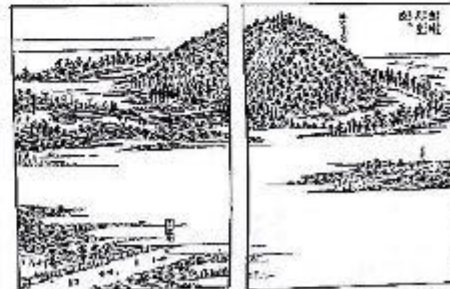
応神天皇陵(誉田御廟山古墳) 古墳時代の河内……、そこは河内湖と呼ばれる湖であった。半島のように南から北へのびる上町台地の先あたりを藤波津といひ、東側に玉造江が入り込み、西側に芳流の海といわれる大阪湾が広がっていた。大船川は奈良盆地の西限、生駒・金剛山地の間隙から流れ出して石川と合流し、さらに豊野川・玉串川・長瀬川など数条の河川に分かれて河内湖に流れ込んでいた。

瀬戸内海を東航して来た船が明石海峡を抜けると、真っ正面の海岸線上に百舌鳥(もず)古墳群の威容が望見できた。藤波津を廻り長瀬川から玉造江に船先を向けると、古市古墳群が望見できた。

築造当時の古墳は、樹木におおわれているのではなく、現在神戸市垂水の五色塚に復元されている墳丘のように露石でおおわれた石築の山であった。陽光を反射してキラキラ輝く山を海上から望見した当時の人々は、強烈な印象を持ったことであろう。

古市古墳群は羽曳野丘陵から北方にヤツテの荒坂に広がった低い丘陵地帯の丘の上に営まれた。東高野街道が南北に、竹内街道が東西に通じている。応神天皇陵は全長415m、後円部径267m、前方部幅330m、後円部高さ36m、前方部高さ35m、二重の堀をめぐらし、土量143万3980立方メートルと計算されている。墳丘の築造に一日一千人が働いた

応神天皇陵(誉田御廟山古墳)『河内名所図会』



とすると四ヶ年を必要とし、墳丘内筒列は墳丘の内外で一万三千個に達したであろうという。

中国の史書、「宋書倭国伝」には、倭国に崇・珍・齊・興・武の五王があり、南朝劉宋の武帝の永初二年(421)から約六十年間に渡って遣使したことが記されている。周濠を隔ててこんなりとした雄大な墳丘を望見すると、数々の歴史を秘めた大王たちの映像が彷彿とする。

## 田辺史伯孫と埴輪馬

『日本書紀』は、応神天皇陵(誉田御廟山古墳)にまつわるユーマラスな話を雄略天皇九年秋七月の条に伝える。

河内國飛鳥郡(現大阪府柏原市東部)の住人であった田辺史伯孫の娘は、古市郡(羽曳野市)の書首加賀に嫁いでいた。伯孫は娘が男児を出産したと聞き、婿の家に祝いに出かけ舟途についた。月のきれいな夜であった。蓬萊の丘にある誉田陵のほとりにさしかかったとき、赤い駿馬にまたがった人に出会った。その馬は龍が飛び交うように走り、鳥が飛び立つように躍り上がった。すばらしい馬であった。伯孫は一目でその馬に心を奪われ、自分の背毛に龍をうき、鬣を並べた。赤駿は揚炎のようにさっさと消えた。道うことはできなかつた。駿馬に乗る人は伯孫の気持ちを感じ、馬を取り換えてくれた。伯孫は喜び、家に帰くと駿馬を厩に入れて鞍を下ろして飼養をあたえて賦った。翌朝、駒を前らせつづつ腹をのぞきこむと、驚いたことに赤駿は上翼の馬に化していた。不思議に思った伯孫が急いで誉田陵にかかけつけると、伯孫の背毛は埴輪馬の間にぼつんとたまたますんでいた。

## 誉田八幡宮

応神天皇陵(誉田御廟山古墳)の後円部のすぐ南側にあり、広大な境内を有する元府社である。祭神は応神天皇(譽田天皇)を主神とし、仲哀天皇・神功皇后、住吉大神を配祀している。

永享五年(1433)に時の將軍足利義満が新写させて奉納した『誉田宗廟縁起』は、応神天皇を祭神とする誉田宗廟を御陵のそばに造営した由来と、誉田八幡の靈験を伝える。上巻は応神天皇の崩御と御陵の造営を、中巻に欽明天皇の勅定で宗廟の社壇を造営し、八幡大菩薩を勧請した由来と、聖徳太子・役行者・行基の靈験を、下巻は弘法大師・善徳真の結縁と後冷泉院の社殿新造、諸種の靈験を述べている。

源頼朝は、建久七年(1196)全国を平定した記念として、「一座地銀細金銅鏡神興」を奉納した。誉田別当一族に守られて大きな勢力を保持していたが、天正年間(織田信長の河内古市攻めの際)、兵火にかり社殿は焼失、神鏡は没収された。現在の本殿と拜殿は豊臣秀頼が慶長十一年(1605)に捐資巨元を普請奉行に命じて再建したものである。

## 誉田八幡宮収蔵庫

誉田八幡宮には、朝廷や幕府の保護を物語る数多くの宝物が納められている。応神天皇陵(誉田御廟山古墳)の前方部の周濠を隔てた北側にある丸山古墳から出土した金銅の武具は、一括して国宝の指定を受けている。嘉永元年(1848)に短甲、刀、鉄鍬、馬具が発掘された。馬具は櫛・鞍金具・雲珠などがあり、すべて金銅製で、ことに鞍金具には精巧な華文が透かし彫りされている。四世紀に中国で製作されたと考えられている優品である。源頼朝の奉納した神輿も同じく国宝である。足利義満の献じた『誉田宗廟縁起』三巻、「神功皇后縁起」則國の銘のある太刀一口、真守の銘のある劔一口、頼朝寄進の長刀一腰、伏見天皇の「復振和歌集」一巻、鎌倉期の松皮装束の鞍一背、能楽面十五面などの重要文化財がある。他に境内の石橋近くで出土した馬形埴輪や神功皇后の三尊征伐の御旗を出迎えたといういわれを持つ三輪形式の蓮花車など見るべきものは多い。

誉田八幡宮の南側には、明治の隆弘義興で消滅した「長野山護国寺」の礎石であった。総構造りの立派な門である。



菅田八幡宮「河内名所図会」



コース概観

今回のコースは、東高野街道と竹内街道が交差する古市で、レトロな家並みに再会したあと、増兵長では全国第二位、土量では仁徳天皇陵(大山古墳)を抜いて第一位の志神天皇陵(菅田御厨山古墳)を訪ね、菅田八幡宮の復れた社室を見学する。

春の一日、家族そろって歴史散歩をするには、最適なコースである。

近鉄南大阪線の古市駅で下車。何倍野橋から急行で一駅である。駅前の道が竹内街道。古市駅のすぐ東側に古市地区の氏神である白鳥神社がある。日本武尊と素戔嗚命をまつる。この社地は、西面する小型の前方後円墳の後円部である。前方部は古市駅などで削り取られている。伴林光平の『河内国産霊園』では白鳥陵に考定されている。

南参道をくだり、竹内街道を東に行くと東高野街道に出合ふ。四ツ辻を南に入った左側に古市の正屋・森山塚がある。三百年にわたって庄屋を続けた家柄は一見する価値がある。江戸時代初期から中期頃の築造という古い建物で、大和棟の屋根の部分や玄関の部分に古い様式がよく残されている。

竹内街道をそのまま東に進むと、道は江戸時代に両替商「銀屋」を営んだ清水家の前で直角に曲がって石川に架かる限道橋へと続いていく。清水家の玄関付近の造り、木製の天水箱に注目してほしい。家の南側の屋根には石川を上り下りした船先船の腐材を再利用している。船先船というのは江戸時代の寛永以降に用いられた長さ10尺、十石積みの底の平たい小

型の川船である。明治二十年頃にはすっかり姿を消してしまっただ。

少し引き返して「銀屋」の所で折れ曲がり、相道を右(北)へ入ると西琳寺の赤い門の前に出る。この古市の地は志神天皇の末期に『論語』十卷、「子罕文」一巻を携えて百濟から渡来した博士王子の子孫が「西文館」と称して居住した地であった。同族で大和に定着した人々は「倭漢直」と呼ばれた。彼らは朝臣の記録文を司った氏族であった。寺は欽明天皇己卯年(659)に文首阿志高が親族を率いて建てたという。

山門を入れて左手の三石は塔の心礎である。心柱孔の周りに支柱孔四つを持ち、側面に舍利孔を有するめずらしい形式で、底面に「潤」の字を刻む。堂内の五輪塔は、高屋丘に移した奥の院宗生院址から出土したものを移したものである。江戸時代の享保頃(1720年頃)、正倉院御物の白磁饅頭と同形同質のものが安楽天皇陵から出土し、玉露として西琳寺に納められていた。口縁径12寸、高さ8・2寸あり、外側に四段十八個ずつの凹文切子にしている。現在は東京国立博物館に収蔵されている。

発掘調査によると東に塔、西に金堂を配する法起寺式伽藍配置と推定されている。鎌倉時代中期の弘安四年(1221)の太政官殿には、寺の四至を「東限飛鳥、西限坂下(喜志)庄、西限尺段庄、北限菅田庄」と記されていて、その広大さに驚かされる。

天正年間には兵火にあい衰没し、明治初期には廃寺となっていたが、歴代住職の努力で復興され現在に至っている。西琳寺の前を西に進み、東高野街道を北へ行く。右手に代官屋敷の趣を伝える土塀が続く。水陸交通の要衝であった古市は、江戸時代の大半天領であった。この古市代官所では幕末の天神組関係者の嚴重な取り調べが行われた。近鉄線の踏切を渡り、なお北へ進んで行くと左手に菅田八幡宮が見えてくる。



古市・菅田陵付近略図

行く手に志神天皇陵(菅田御厨山古墳)が小山のように鎮座している。貝原益軒は旅行記「己巳日記行」を残した。元禄二年(1686)、河内、和泉、紀伊、大和の諸国をめぐった記録「兩遊紀事」に次のように記した。

菅田ノムグヲ誤テコング云。古市と町ツマけり。北を菅田と云。古市も、各ある里也。菅田八幡宮、大社也。……本社の後に、志神天皇の御陵有。長野の發、是也。境内広し、神領二百石附。仏閣多し。對台有。鐘樓有。……真言の僧、社を守。奥の院有。是は津宗也。凡、十五坊有……

享和元年(1801)刊行の『河内名所図会』は「志神天皇陵」について記す。陸上に、近年、六角の土殿を建てる。外側にも亦、六角の土塀を立たり……陸道

一町<sup>町</sup>、左右に松を植て、石灯籠二基、其下に宮令<sup>みやのり</sup>場中門あり。これより、雑人、陸上へ登る事を禁ず。誤て昇る時は知禁あり。

菅田八幡宮の本社に参詣した若男若女は、木殿右手の太鼓橋を渡り築地扉の間の車馬の門をくぐり、吹抜の神社祓殿風の建物のから一直線に四、五十段の急傾斜の石段を上って六角形の小さな堂、奥宮を拜することができた。

幕末の山賊松尾重義が仏教色を排除し、明治の亮仏殿が「仏閣」を全て破却した。菅田八幡宮には南門よりほか神仏習合の記憶を窺めるよすがはない。

▲コース▼

- 近鉄阿倍野橋駅(南大阪線準急約20分)
- 古市駅→白鳥神社→古市庄屋森山邸→銀屋→西琳寺→古市代官屋敷→菅田八幡宮→志神天皇陵(菅田御厨山古墳)
- ▲費用▼
- 近鉄阿倍野橋駅→古市駅 390円
- ▲地形図▼2万5千1:1古市
- ▲問い合わせ先▼
- 菅田八幡宮社務所

0729(56) 0635

残雪を踏んで登る

幕谷山

中級コース(★★★)  
慶佐次 盛一

湖北にはいい山がごまんとある。しかし、その多くはやがに閉ざされて近寄り  
がたく、固くしまった残雪を踏みしめな  
がら登るのがベターだろう。春3月、巻  
では梅の花も散り始め、かわって桜の開  
花予想が新聞に載る季節だが、湖北の春  
はまだ寒い。この時期湖北の山は、よう  
やくマンサクの花が開き始め、遅い春が  
近づいたのを知るのである。今回はそん  
な山の中から、杉野富士とも呼ばれる、  
端正な幕谷山を紹介しよう。  
登山口の杉野までは木之本からバス便  
もあるが、私たちは大阪からマイカーを  
使った。北陸自動車道木之本インターか  
ら国道503号線へ降り、杉野へ向かう。

匡道を杉野川沿いに北上する。雪解けの  
水を集めた杉野川はとうとうと勢いよく  
流れている。杉野が近づくと正面に幕谷  
山が見えてくる。杉野富士の別称通り、  
まさに富士形の端正な山で、残雪におお  
われた真っ白な姿が美しい。  
湖国バス杉野農協前バス停の先に、5  
〜6台が駐車できるスペースがあり、こ  
こへ駐める。ここで残雪の山歩き的身仕  
度を整えておくほうがいいだろう。  
バス停から少しバックして、右の曲谷  
へ入る。入り口には南掛寺への道標と、  
由緒を帯いた札が立っているから見落と  
すことはないだろう。正面に幕谷山が間  
近に迫ってくる。猿も多く、雪をかぶっ  
た田畑で遊んでいた猿たちが、私たちの  
姿におびえて山へ逃げ去った。

左側の橋を渡ると、南掛寺への新しい  
道標と由緒書きがある。平安時代、伝教  
大師(最澄)が建立した寺で、一時は四  
十八の僧坊が立ち並ぶ大寺院だったそう  
だが、戦火で消失したらしい。  
地形図には道はないが、ここから南掛  
寺まで林道がついている。時期によって  
残雪の量はまちまちだろうが、私たちは  
この林道を少し入った所でワカンなどを

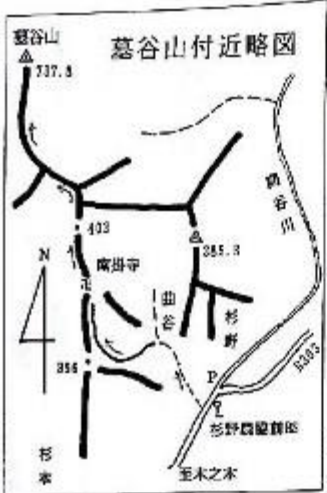
曲谷から見た幕谷山



着けた。林道は尾根からつかず離れず、  
ゆるやかに高度を上げて行く。白く長い  
裾をひく金巻岳が東南に見え、登るにつ  
れ横山岳も北東に見えてくる。  
南掛寺の境内はかなり広い。本堂は木  
目を露にした素朴な造り。鐘楼に隣代住  
職の宝篋印塔も建っている。本堂の裏  
からいよいよ山に入る。しばらくは植林  
帯のなかである。植林帯を抜けると標高  
点493坪への登りだが、日当たりがい

いせいか、ここだけは山肌が露出して歩  
きづらい。しかし、またしつさり上り積もっ  
てよく締まった残雪が続く。青い空を仰  
げば黄金色のマンサクが満開で、目が痛  
いほどの輝きだ。ぐんと近づいた北東の  
横山岳はまだ純白の衣を纏い、めざす幕  
谷山はもう指呼の間である。

しばらくは急登だが、よく締まった残  
雪はさくさくと心地よい音を立てる。左  
に見える余呉と木之本の町界線標の、急  
峻な南面はもう完全に雪が解けている。  
しかし、重い雪に押されたやぶはまだ寝  
たまま、つややかで急峻な山肌から林  
立するミズナラの木々がすばらしい。の



余呉と木之本の町界線に達し、その

被線を北上する。ミズナラ・リョウブな  
どが生えるやせ尾根である。やせ尾根だ  
けに雑木を避けたり、隣りたり、幹の間  
をすり抜けたりの登りだが、まず緩坂を  
はずすおそれはない。早やぶも立ち始  
めているが、足下に杉野の村や杉野川の  
荒行を眺め、高度感を味わいながら快速  
に登れるだろう。

登るほどに残雪は深くなり、ぶたとし  
た幕谷山の頂上に着く。小さな雪原といっ  
たたはずまいで、所どころ雪の中から雑  
木の幹が突き出ている。そんな雑木の  
一本に、幕谷山と書いた登山プレートが残  
されていた。寝念ながら、三角点に深い  
残雪の下に埋まり見つからなかったが、  
3等三角点である。

山頂の東側は櫛の植林帯だが、  
場所を変えれば横山岳も見え、  
余呉湖・蔵ヶ野・七ヶ頭ヶ岳、  
そして足下に杉野の村、金巻岳  
から巨峰山へ続く長大な被線、  
琵琶湖に浮かぶ竹生島もかさ  
んで見える。  
春の陽気に浮かれる季節  
だが、湖北の山々はまだまだ残  
雪におおわれたままである。私

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!  
小型 (20人・24人)  
中型 (28人乗り)  
中2階 (45人乗り)  
大型 (55人・60人)  
いづれもサロンのカー  
からデラックスまで  
スキーバスもあります  
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983  
(夜間・電話 06(948) 0916・FAX 06(948) 8044)

私たちは雪の感触を楽しむかのように、こ  
のすてきな山頂でゆったりと時を過ごし  
尻セードを交えながらもとの道を通り  
た。(平成9年3月2日歩く)  
△コースタイム▽  
杉野農協前(80分) 南掛寺(1時間) 町  
界線合流(30分) 幕谷山(1時間) 南  
掛寺(25分) 杉野農協前  
△地形図▽2万5千1近江川合  
△問い合わせ先▽  
湖国バス 0749 (62) 3201  
杉野山の会 0749 (81) 0638



### 2等三角点のある山

## 尖峰山と立伍山

山形 歳之

紀州は木の国と言われ、昔から山林事業が盛んで、両山とも全山植林の山である。

よく手入れされた太い杉の樹は、高さ20mばかりに成長し、直立して空をおおい、悠然と並んでまるでお寺の境内のような静寂を保っている。

秋のシーズンに訪れたので、その濃い緑のなかの雑木が黄葉し、山麓の畑では柿やみかんが色づき、さながら秋の花見といったところである。また視覚ばかりでなく、道沿いに軒を連ねる無人売店では味覚のほうも安価で、目と口の両方を楽しませてくれた。



尖峰山村近略図

家が見える。小型車がぎりぎりいっぱい詰まっている。の狭い急坂を登って行く。こんな所にも人が住んでいるのかと思うほどの山奥である。山手集落を登り抜け、舗装の切れた林道をさらにひと登りすると被線の林道に合流する。



ここでは右折して奥に向かう。地図の新田庄とある所。この道は木材集出の私道とのことだが、特にゲートもなく通行に問題はないようである。右前方の林の梢越しに尖峰山の姿が見える。最も近づいたあたりで、右手に林道が分岐し、両側の樹に赤いテープが付いていた。落ち葉に埋まった林道を数10m入った空地に車を駐める。

周囲はよく手入れされた植林地で、太い杉が林立している。落ち葉を踏んで歩いて行くと、西側に伐採地があって展望が開ける。さらに先の植林に向かい、家

庭川のアンテナの奥に三角点を見つめる。全くの林のなかで風物も無い。ガイドブックにも記載されている山にしては、山名標示板も登頂記念板もなく、登山者の気配すらない山頂である。山名の尖峰山から眺むを想像して登ってみたが、植林におおわれた穏やかな山頂であった。

林道があるのでも車が入ってしまったが、本当は静かに林道を歩くほうがよいだろう。

#### ▲コースタイム▼

林道登山口(15分) 尖峰山

△地形図▽2万5千11冊 5万11冊

立伍山(944.6m)中級コース(★) 国道480号線をさらに東進する。

「しみず温泉」を過ぎ、井谷に至ると高野神社スカイラインに通じる道が分岐する。この分岐点から200mほどばかり入った所に軽自動車やトラックが通れるくらいのコンクリート舗装の道が山に登っている。ここが登山口になる。

車は道路脇に数台駐車できる。この道は100mほどばかりで台地に登り着く。地図の寺手で、ここには子安地藏堂と四社明神社、そして一軒の農家が建つ。この



立伍山付近略図

農家と手前の茅葺きの建物の間から登山道が始まる。

道は植林のなかを登り、やがて右折して尾根上に登り着く。ここに小さい作業小屋が建っている。この道は尾根を乗り越して西斜面をぬいながらやがて沢にくだって行くが、頂上はこの峠の小屋の所から尾根上を直登して行く。全く踏み跡もないが、植林のなかには下草もなくどこでも歩ける。尾根筋も広くはないので、ひたすら尾根をはずさないように登る。

所どころに境界を示す赤いボリの杭が打たれている。少し尾根が広がって左にカーブしている所に、下山時のためテープを付けておくところ。さらにひと登りすると、「立伍山地(主川村又)」と書かれた

板切れが立っていた。後にも先にも立伍山の文芝を見たのはこれ限りであった。

やがて伐採地を過ぎ、最後のひと登りで3mばかりの朽ちた櫓の立つ山頂に到着する。朽ちてはいるが滑の残っているのはめずらしい。

植林と雑木混じりの頂上は、わずかに北方が望めるだけで展望はない。色あせたボロボロ布が一つ結んであっただけで、山名の標示もなく登山者の痕跡もない静かな頂上であった。

道筋は不明瞭だがやぶもなく、尾根さえはすさなければ簡単に登れる。

清水村には立派な温泉があるので、下山後に汗を流すのによいだろう。入浴料は600円。

(平成9年12月1日〜2日歩く)

#### ▲コースタイム▼

寺手登山口(30分) 峠の作業小屋(1時間20分) 立伍山

△地形図▽2万5千11冊 5万11冊

### 中世の山城跡

## 玉手丘と国見山

初級コース(★)

柴田 昭彦

JR和歌山線被上駅あたりからは、北に本間山(米間丘)、北東に越智丘、そして南には国見山と玉手丘(玉手山)がながめられる。

古代の接上は、今日の御所市御所を中心とする地域で、『日本書紀』にある、神武天皇が即位後に國見を行ったという「殿上の味間丘」は、戦前までは国見山であるとする説が有力であったが、今日では、本間が味間の転訛であり、本間山を指すのではないかと、とする説が有力になっている。

本間山頂の「火振塚」はかつて烽火台として利用され、大和平野の展望に恵まれていた。戦時中は陸軍演習の統監台と

なり、昭和十六年には李王殿下が登山されたという(奈良県史14地名)。現在では三角点のあった頂上には樺土によって失われ、尾根道も崩道となっている。

飛鳥付近の丘や山の高さから、古代人は、160m以下を「丘・岡」、100m以上を「山・岳」と区別していて、国見山のことを「国見丘」と呼んでいないことは興味深い。

国見山と玉手丘の山頂には、中世に越智氏とその一門の玉手氏が築いた山城の跡が残っている。

国見山へは、国見神社から登るコースが、「新成ハイキングノート」(創元社、昭和36年)や石川銀次郎『畿國の史蹟』(昭和15年)などに紹介されているが、今では廃道である。

玉手丘へは、金比羅神社から尾根佐いの道があったが、やはり廃道となっている。

近鉄釜谷のハイキングマップ「旅するへ」(山てくてくまっぶ)の「二尾尾山・御所富山古墳散策コース」は玉手丘と国見山の間を通り抜けているが、その登路は紹介されておらず、確かめてみたいと思っていた。今回、山頂へ至るルートをと

入り、次の分岐で右をとって孝安天皇陵まで往復して来て、左を進めば金比羅神社の下方に出る。階段をくだると洗願寺の橋に出る。左へ進み、秋津湖池病院の北に出て、LPガス貯蔵庫より少し手前にある広い山道へ入る。入り口の右側に立木がある。

小屋が見えてきて、右の方へ少し登る

と峠に出る。左手のゆるやかな広い道をたどっていくと行き止まりとなり、左手の山道に登る。ほどなく、開けた場所に出て、そこからの道は不明瞭だが、北へ高い所をめざして少し右寄りに進めば、玉手丘の山頂付近に出る。

山頂は貝吹山城又城の玉手山城の跡で、空堀で区分された大小二つの郭があり、南には虎口が開いている(日本城郭大系10)。三角点ではないが、先ほどの開けた場所に戻り、西側の細い道をくだる。左へくだけば峠のすぐ上に戻る。時からは駐車場へ出ないで、もとの道に戻ろう。



玉手丘・国見山村近略図

御所市民運動場の橋へ出て、日本武尊塚(原白鳥塚をめぐす。高田では民家が立

国見山(左)と玉手丘(右)



JR和歌山線玉手駅で下車。平成元年に新設された無人駅である。前方車両から降りることに注意しよう。駅前の広い道を横断して、細い道を南下すれば五つ辻に出る。ここで右折して洗願寺前に出て、もよみが直進する。突き当たりで右へ

早春、陽春、春が来た。  
「思わぬ雪にわかんはき  
苦勞した事あったっけ!!」  
山はまだまだ冬装束  
雪・氷の対策も忘れずに

1499  
947  
15%

**IMOCK.**  
Kobe

**神戸ザック**  
〒650 神戸市東灘区大塚町4丁目2-1  
TEL(078)621-5851  
FAX 621-5825

**KOBEの登山専門店**  
手作りザックの店です。  
心ときめき、背負い安いザックです。

トレックオール45

- 2~3日の小旅行から本格的な山歩きに  
対応するオールマイティモデル
- フロントメッシュポケットと大型ポケット
- 側面には片側はスカーフポケット、片側はインサイドポケット
- 両サイドに大型ランドポケット・コンプレッションベルト
- 片側調節可能なインサイドフレーム内蔵

カラー ベージュ×ネイビー、ベージュ×ワイン、ベージュ×モスグリーン

重量 45g 容量 1,000g  
サイズ 16×26×70cm  
素材 裏生地:セルシール  
価格 ¥12,500(税別)※ハイ価格

冬春号・新発売!

# 登山・ハイキング バス時刻表



JR時刻表には掲載のない  
路線も多数収録  
登山道に通じる  
停留所をピックアップ  
登山・ハイキングファン  
のためだけの時刻表です  
岐阜・三重・滋賀・奈良・和歌山・  
京都・大阪・兵庫・福井西部の  
2府7県をカバー



東京・埼玉・神奈川・  
静岡・山梨・栃木西部・  
群馬・長野中央部・  
伊豆諸島を収録!

「関東版」「近畿版」ともに書店や  
有名スポーツ店で発売!  
ご自分の駅は掲載されているかご確認ください  
関東版: 近畿版より  
98年11月14日発行  
講談社 tel.03-3265-7445



国見山頂の石碑

て込んで、わかりにくい、狭い道に入っ  
て三つに分かれている分岐点で左をとれ  
ば白鳥陵である。伊勢国の能登野に葬  
られた日本武尊が白鳥となつて、後の琴  
弾原に降りたので、ここに陵が造営され  
たと伝えられ、さらに古市にも飛んで、  
白鳥陵が作られたとされて、三つの白鳥  
陵が存在する(旅行記)。  
先ほどの分岐点に戻り、まん中の道を

北へ越えてくると、車止めのしてある  
所に出る。そこを入って南側調整池の南  
側をたどる。しばらく行くと右手に道が  
あり、南東の方へたどって行くと山道と  
なる。途中で右へ折れて尾根道をたどる。  
溝状の道はやがてジグザグになって、急  
坂を登りきると平地に出る。ここが往  
昔(江戸期?)の国見神社の旧社地のよ  
うだ(山頂にもある)。  
東南へ尾根道をたどれば国見山の山頂  
である。山頂には三角点があり、昭和十  
五年の石碑には「暖開丘」「神武天皇聖  
蹟伝説地」と刻んであるが、ここからは  
大和平野の展望はなく、木間山麓の借  
悪性を高めている。東側は張り出しが  
明瞭で、国見山麓の跡を観察することが  
できる。国見神社へのくだり道は不明瞭

なので、もとの道をくだることにする。  
須坂時経田の近鉄ハイキングコースを  
たどって、近鉄吉野線市尾駅へ出ると便  
利である。JRの駅を利用する場合は1  
時間に一本の運行なので時刻を調べてお  
くことよ。  
(平成9年8月21・22・30日歩く)  
▲コースタイム▼  
JR玉手駅(10分) 孝安天皇陵(10分)  
玉手丘登り口(15分) 玉手丘(40分) 白  
鳥陵(35分) 国見山(40分) 須坂峠(45  
分) 近鉄市尾駅  
▲地形図V2万5千II版傍山

## 関西登山案内書の変遷 下

阿部 恒夫  
(日本山書の会会長の)

【画】登山案内書の全盛(昭和後期)  
「国破れて、なお山河があった」敗戦  
後、食うや食わずの最中でも、国民の  
山への憧れは激しかった。当然、登山案  
内書の需要が高まり、ガイドブックは比  
較的、小冊子で間に合ったので、他の山  
書が戦前のレベルに復帰する前に、早く  
も立ち直っていた。

震災に迷わなかった京都で、前述の宝  
書房の「ハイカーの道」シリーズ、近畿  
交通社の「大峰と大台」(昭和二三年)木  
藤新一郎著「近畿観光案内」(第二巻)などが  
そうである。戦時下と変わらぬ粗悪なセ  
ンカ紙の印刷に加え、表紙・表紙・写真・  
地図ともお粗末であったので、昭和二十  
年代の登山案内書で現存する古書は珍し  
い。

戦前の明文堂に続き、山と渓谷社が最  
後かなり本格的にアルパイン・ガイド・

シリーズを続々と出版した。その第一号  
が、泉州山岳会の『近畿の山』(昭和三  
四年四月)で、発行当時は『登山地図帳』  
という野暮な名称だった。それが『続・  
近畿の山』(同会編)同三年六月/同社  
刊)から、『山溪アルパインガイド第二  
集』に改題、さらに『改訂アルパインガ  
イド第一集』(『近畿の山』で合併・改定  
された)。

「山溪アルパインガイド」の姉妹書  
『山溪文庫』第一集は、川崎隆義著『美  
しき足湯の郷』であった。同文庫の第八  
集『比良連峰』(森本武男著・昭和三六年)  
には驚いた。角倉氏の釣堀場の比良に、  
あの森本氏が登場したからだ。また関西  
地方ではなからうが、『木曾路の旅』  
(同文庫・第一八巻)も執筆されている。

ややこしいのは、明文堂の戦前版『京  
都北山と丹波高原』と題名で、『山溪ア  
ルパインガイド第四五集』を、森本氏が  
委託者の要望に答えられていることだ。  
「もともと『山溪文庫』のため、山溪  
物誌として書いたものを、同社の都合で  
『山溪アルパインガイド』に入れられ、  
著者として鈍重な登山案内書でないから、  
たいへん遺憾に思っています」と、森本

さんからじかに伺ったことがある。

ここで、これも大先達の驛尾に付し、  
私事ながら、『同シリーズ第四九集』の、  
『比良一研究と案内』は、角倉太郎氏と  
筆者との共著である。もちろん、比良研  
究一筋の角倉さんが、比良開拓に生涯を  
捧げられたのに、逆に比良の自然破壊防  
衛に前半の研究編を、後半の案内編を筆  
者が執筆した(昭和四〇年五月一日初版)  
同四年四月一日重版)。戦後もこの頃は  
まだガイドブックの再版や改定が行われ  
ていた。当時の「山と渓谷」誌上で「比  
良の落葉化に」一石を投じた気骨ある登山  
案内書」と紹介され、比良のゲアリエー  
ション・ルートまで発表したが、道標防  
止にもかなり留意してまいったつもりであ  
る。

ところで、日地出版の『登山地図帳』  
が、この頃は全盛時代だった。『京都北  
山・比良』(角倉太郎/今井浩一/昭和三  
六年発行)などのことも書いておかねば  
ならない。比良を角倉氏、北山を今井君  
の担当は当然だが、案内本文より、挿入  
の多色刷り「登山地図」のほうが重宝が  
られた。  
現在では、明文社の『山と高原地図』

にすっかりお株を奪われてしまったようである。

明文堂が、住友山岳会の『近畿の山と谷』の新版をもくろんで企画したが、やはり同社の事情で大版近辺に限定して出版したのが、『大阪府近の山々』(昭和三十一年初版/同三十九年四版発行)である。この二冊目の「柳の下のごじょう」は、期文堂編集編輯となったが、実際には各山岳ごとに精進者が共同執筆したものである。なぜ、そんなことまで知っているかと言われれば、筆者も京都北山および丹波高原、比良連峰の項目を書かされたからである。こうした悪あがきをした版元はいずれ倒産の道を歩き始める運命になる。

「明文堂マウンテン・ガイドブック」シリーズ第二集「大峰の山と谷」(仲西政一郎、同じく第三六集「六甲とその周辺」(中村薫)なども、その頃の刊行物であった。

いまひとつ、戦後の関西総合登山案内書に『関西の山三〇〇コース』(日本登山協会編/昭和三十九年・山と谷社発行)がある。本書の内容も類書と大同小異で、関西と称しながら近畿・中国・四国と広

域にわたり、物足りないのは当然であろう。

『日本山岳士誌』その七「近畿の山々」(谷本忠世代表編者/昭和三十五年・明文堂)もあり、各分野の権威が分担執筆している。

またまた私事で恐縮ではあるが、例の森本次男著『樹林の山旅』が古昔市場で高値人気の人手困難で、その『海賊版』まで横行する始末。森本さんの晩年に師事した筆者は、京都のサンフライアウト出版・古川社長を口説いて原本を出発に複製、何冊に解題・文献・資料・関係者座談会録・著者目録・著者遺影など集め得る最高の情報を、活字と写真に印刷した。表紙を油彩画に再現、貼り函に原書秘蔵の帯紙までつけた限定八百部本、古昔価格の半額の五千八百円でたちまち売り切れ。気をよくして、復刻版では異例を承知で、丹後ちりめん京友禅手ざし集め「白杉柄」別注特製表紙で、袖張天端函立立ての、超豪華特装限定二百部(特価・一万五千円)も品切れ。昭和五三年八月二〇日から、翌五四年八月一日までの、夢のような一年間であった。

この話の後日談に、西岡一雄氏の名著

「泉を聴く」の複製を続刊。先般、物故された阪訪多栄政氏を編者に、「淀川文庫」坂戸主人所蔵の関連資料や文献等を駆使した、二冊目の上製複製限定版は不幸にも「中公文庫」本の「泉を聴く」とまともに競合する羽目となり、餅れゾツキ本として果てた。

登山案内書は隠れたベスト・セラー、ロング・セラーとよく言われるが、本の運命またよってくだんのごとしである。

#### (四) 現在の登山案内書

山書不況が叫ばれて久しいが、登山案内書の分野だけ百花繚乱、ガイドブックは不死鳥のごとく、書店の一隅で健在である。

関西の登山案内書を読む時、ナカニシヤ出版抜きでは語れない。大方の購読者は版元が山書専門出版社と早合点されていよう。もともと京都大学の教科書、参考書などの出版が本業であり、登山関係書は中西社長の道楽の副業なのである。それだから採算のとれないような山書を時々、上梓しては本好きをよるこぼせる。現役登山家であると同時に、登山界に知的文化の植林を怠らない社長兼編集長兼

セールの一人三役、いや八面六臂の中西さんならではの経営戦略、「地方区から全国区へ」方針には感心させられる。

本項は同社のPRが目的ではないから、ここで大型または専門書店で実際に現物をご覧いただくか、同社の「出版目録」を参照されたい。

晩年の森本次男先生のこともよくご存知で、「樹林の山旅」を抜く登山紀行案内書にはまだお目にかかっていない、とは同氏の口癖か。そんな口の下から生まれたのが「比良の父―角倉(すみのくわ)太郎遺稿集」である。またも私事になり悲願だが、角倉さんがお元気なころ「比良の昔話をぜひ一本にまとめられよう」と、筆者はどれほど口説き逆したところだろう。残念ながらこの悲願は終に生前には実現しなかった。それが、角倉さんと同じ丸善書店出身で娘婿の佐々木信夫氏の汗取で実現できた。戦前の貴重な風景から、昭和三〇年代までの記録写真二〇葉の白黒写真が、口絵の遺影とともに巻頭を飾る。本文は献辞四編、比良のあれこれ十三章、参考資料五編など二一〇頁にまとめられた。角倉さんの三回忌法要が京都嵯峨野・二尊院(角倉本家の

菩提寺)で平成九年三月十五日に営まれ、席上、配布された。(希装・上製本・紙箱入・限定二〇〇部)

勿論、同書にカラー表紙・帯封つきで、二二〇〇円(本体価格)で市販されている。

比良山系の登山案内書は、筆者も片棒をかついだ「比良―研究と案内」(山と谷社監修)以来、自然語や写真文集など以外、本格的なガイドブックが刊行されていなのも意外な事実であろう。

また西山秀夫著「名古屋からの山旅」平成七年九月/七頁出版刊(本体・一四五六円)には岐阜・福井・三重・滋賀各県の山が二十二座も紹介されている。

さらに日本山岳会東海支部編「名古屋からの山なみ」中日新聞本社/平成三年六月初版(平成六年十一月改定版)本体一四四二円が大海航行で遂行され、鈴鹿・美濃の山なども含まれている。

驚くべきことに、『名古屋周辺・山旅徹底ガイド』(前掲)が前書と同じスタックと新聞社から、平成七年十二月に続刊された。副題に「台高、鈴鹿、美濃」とあり、六十七人もの共同執筆の功罪には、首をひねらざるを得ないが、そのエ

ネルギーには感服させられる(本体一五五三円)。この続編に関西の山は含まれていない。

消耗品的な古い登山案内書の変遷にこだわる理由は、鉄道マニアの、明治・大正・昭和・平成の時刻表収集と同じようなものだ。確かにその一冊単位では時代(時期)単位の点の情報がしかないが、何冊いや何十冊ともなると、その流れが線となって、貴重な情報の累積となり、登山史や登山思想の資料・文献となるからである。

「新ハイキング関西の山」誌は小冊子とは言え、村田編集長の獅子奮迅の副業で三十数冊のバック・ナンバーに成長した現在、その各号には最新情報が目白押しになっている。雑誌はとかく散逸しやすいものだ。十号毎に合本(製本)すれば、これほどの登山案内情報誌はないと百いたい。(平成九年十月十日記)







れているのを思い出した。私はササの花を見たわけではないが、山田氏の書いておられる「じくね」ではないかと思われる。ササに花が咲くのは何年に一度のことか知らないが、興味深い自然現象ではある。

ただ、先述行った白濁池(台意)のトグツから神之谷在所へくだる尾根のチマキササは枯れていなかった。近頃のササがいつせいに枯れてしまったというわけではないらしい。

(編集 蓮生)

「山でサルに会ったよ」  
「エッ、ホントー」  
妻は信じられないというようなまなざしを、私に向けた。  
秋晴れの10月初め、ひとりで近江の松尾寺山に登った。標高500mほどの里山である。  
急坂の林をあえぎあえぎ登る。ひと休みしたいと思ったとき、紫色のアケビの皮が道一面に散乱しているのに気づいた。見上げると、小さな青い実と口を空けた皮だけのアケビがあった。  
さっさと奥へ進むと、同じように皮だけがたたくさん落ちていた。

土地の人なら突のまま家まで持ち帰ると思う。いったいだれがこのように散乱させたのだろうか。ようやく峠に達した。汗を拭きながら目の前の山を眺めていた。すると、ガサガサと草木をかがみ分ける音が近づいてきた。それが登ってくるのだろうか、興味深く待った。

すると、一瞬、音が途切れた。そして現れたのは、なんと一匹のサルだった。ふさふさとした毛におおわれた、体重10kgほどもありそうな大物だ。大段に私のところへ近づいてくる。距離は約5m、思わず私は身構えた。ところが、彼等は私を一目見ただけで、赤い尻を見せ山の方へ去って行った。愛想も敵意も見せず、悠然とした態度だ。

私はしばらくそのまま彼の後ろ姿を見送るだけだった。「こんなジジイは、うまいエサなんぞ持ってねえだろ。おいらの山へアケビでも取りに行くべか」彼はそうつぶやいていたに違いない。(北風 佐久治)

霧島の縦走めざすわれら父子に  
行く手さえきりも何もしない  
11月2日 霧島千穂峠  
あゝ高千穂丸果てし峰の御鉢に  
呼べは答える神代からの御  
11月4日 室生瀬井岳戒場山  
なせか胸に釣を響かす山の音は  
ヤマベノアカヒト万葉歌よ  
11月7日 紀北生石ガ峰  
ハイウェイの両かけがえないもの  
を求めて横らは一歩踏み出す  
11月10日 北嶺大崎山  
退行する舟送るため花屋に寄ろう  
11月16日 月夜三市小金ガ岳  
霧の多紀アルプスはモノトーン色  
友と半分ずつの紅茶が温い  
11月24日 其間最勝ガ峰  
紅葉を見たいという妻の手を引き  
戻して短き銀路の記念日に  
11月29日 奥越前山岳  
僕を招く峰へ空雨を突いて登れば  
ダブルストロークは足跡を強く  
12月9日 湖北伊吹山  
山よお前の友情はガス深き日に  
霧水きらめく神様を降らせて  
(木村 太郎)

ひょっとしたら申し込めはしないかも知れないと考えていました。ところが、遠く関西などから一泊二日の日程で10人中1込みがありました。ならば、そのお気持にこたえなければ、「ものみ山自然観察会」のリーダーである池田のKさんに応援を求め、当日の現地案内を依頼しました。私は荷でのスライド上映会の準備にそそみ、アルプスの山々と高山植物の名前あてクイズを工夫してみました。

一日目は、手製の「主な常緑広葉樹の見分け方」という検査表を配布して、山屋山まで樹木を観察しながらゆったりと歩き、夜は、登山行き山名・植物名クイズを主にしたスライド上映会を開催しました。

二日目は、Kさんの案内で愛知万博会場予定地の「海上の森」を歩き廻り、世界中で東海三県のみ分布(東海丘陵要葉)の「シロ」する貴重種のシロコブシの木を採集しました。木の葉・草の葉の子孫を残すための工夫について観察、自然の摂理、英知というものに感銘しました。また、ウグイスには「チャマ、

11月30日、鈴鹿峠から三子山に登りました。事前に読んだ本には、それほど展望がよいとは書かれていなかったのですが、なかなかのものでした。

雲をかぶった姉岡山と西尾岳。かたに鈍く光る接雲岬。仙。岳。鐘ヶ岳。野登山。そしてこの前苦勞して登った明風ヶ岳など。伊勢湾には神島が浮かんでいます。朝熊ヶ岳、蟹嶺、牛草山から度会郡の山々も見渡せ、松阪の街も望めて満足でした。風が強かったので、中峰の東側で食事をしました。山中で出会った人は、三人。冬枯れのなかに光るヤブコウジ・ツルリンドウ・シロタモの赤い実がきれいでした。

36号にバイケイソウのことが出ていましたが、97年6月29日に、総門山でも多くの開花を見ました。(森木 伸人)

「山行短歌」  
11月1日 霧島白鳥山  
白鳥の名をもつ山の賑る場所ほ  
えびのの丘のどの湖あたり  
11月2日 霧島朝陽岳

「山行短歌」  
11月1日 霧島白鳥山  
白鳥の名をもつ山の賑る場所ほ  
えびのの丘のどの湖あたり  
11月2日 霧島朝陽岳

<p>標高2000m以上の温泉 湯の丸高峠自然温泉 ハイキングにXCSキー</p> <p>高 峰 温 泉</p> <p>〒3394-0000 長野県小諸市高峠温泉 0266-72512000</p>	<p>日本旅館の温泉(2400m) 立山・定湯平 みくりが池温泉</p> <p>〒399-0400 富山県新川郡小門本町3-47 0764-8216331 4/9(山)25(平地) 0764-8514599</p>	<p>ハイキングに、スキーに 志賀高原 石の湯ロッジ</p> <p>バス 熊の湯温泉バス 0266-3414401 東京本社・東京都新宿区新宿6-1-20(5F) 電話03-3344-1111 脚スポートサービス 03-3344-1102-11</p>	<p>道の道「千国街道」 百八十七林「観音堂」 ホテル</p> <p>白馬ブランチ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 0266-7214450</p>	<p>春・秋 小グループ 白馬の自然案内します 白馬ファミリーペンション</p> <p>和田 森</p> <p>〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村八方田町 0266-7215301</p>	<p>登山道案内のオーナーが雪合す 針の木板、雨師山、火打山など へご案内します。</p> <p>テントキーパー</p> <p>1泊2食付き 6600円から 0399-93000 長野県北安曇郡白馬村おくら 0266-7212151</p>	<p>八ヶ岳南麓北麓の中心地 55年秋の湯温泉温泉館温泉 木の香りの新築温泉生木温泉</p> <p>オーレン 小屋</p> <p>1泊2食付き 6600円 0399-93000 〒399-9300 小笠原町 0266-7212151</p>	<p>北八ヶ岳の登山地 冬はスキー JR長野駅、北八ヶ岳登山口まで 送迎します。</p> <p>温泉旅館 ホテル カナール</p> <p>〒399-0000 長野県北八ヶ岳村湯田丸平5-6 0266-6712000</p>
---	---	--	---	---	--	--	---







費用 交通費各員  
地図 昭文社「林檎・伊吹・  
信濃」

係 ◎長野 明 ○山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

花の千ルン！  
鈴鹿・信濃の園を訪ねて  
冷川谷から磯越ヶ平・天狗岩  
（鐘懸向き）

期日 3月29日 日曜日  
集合 306名 冷川谷林道  
入口（鐘懸）8時

コース 冷川谷・滝ヶ岳・白駒峰  
一頭蛇ヶ平・天狗岩・坂  
本谷・冷川谷（解散16時  
頃）

費用 交通費各員  
地図 2万5千・藤立・滝ヶ岳  
係 ◎筒井克治 ○木村吉秀  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

★マイカー山行

雷でルートに分らない所を歩  
きます。我こそはと思われ方は  
参加してください。雨天中止

運木ハイック  
京都西山・山崎雲天から京約橋  
（一般向き）

期日 4月4日 日曜日  
集合 JR京都線山崎駅9時

コース 山崎駅→寺→山崎雲天  
一木上山→浄土谷→集谷  
磯野→大沢→釈迦岳→奥  
海印寺→長岡大滝宮（解  
散）

費用 約1500円（大坂まで）  
地図 昭文社「4都府西山」  
係 ◎淡野東隆  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

後の名所山崎雲天を訪ね、天王  
山から西山の尾根を北へ歩きます  
小雨決行

南山城・大河原から藤生・笠置  
（一般向き）  
期日 4月5日 日曜日  
集合 JR関西線大河原駅9時  
10分

コース 大河原駅→湯浅橋→南大

河原 鳥居路→柳生→空  
置山→わかさぎ温泉（入  
浴）雲霞駅（解散）

費用 約3000円（大坂まで）  
地図 2万5千・笠置山・柳生  
係 ◎村田賢俊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田まで

大町原から柳生へ南下し、さく  
らの谷の笠置山へ東進自然歩道を  
歩きます。希望者は「わかさぎ温  
泉」へ入浴できます。小雨決行

美濃・鍋倉山（一般向き）  
期日 4月5日 日曜日  
集合 JR東海道線大垣駅近鉄  
線のりば8時30分（近鉄  
大垣駅発4時30分に到着）

コース 大垣駅（電車）揖斐駅  
バス（バス）八合→上流分  
岐→谷山→鍋倉山→尾巻  
平→東津成分岐→尾巻の  
里→美濃（バス）稲葉駅  
（市バス）大垣駅（解散18  
時頃）

費用 約4000円（名古屋か  
ら）  
地図 2万5千・美濃・楡山  
係 ◎小出良孝

申込み 〒446-0000  
刈谷市一里山一里山59  
の30 小出まで

大合から谷山までの間が一部土  
木工事をしていて自然が失われつ  
つあります。落石や崖崩れから  
はブナやミズナラの雑木林のなか  
を登って行きます。雨天中止

甲斐・三ツ峠（初級向き）  
期日 4月11日 日曜日  
集合 JR大井町線8時15分  
1泊2日

コース 合目（大井町バス）/  
名神・中央線 三ツ峠登  
山口→三ツ峠山→四季菜  
園（昼）

⑫日 四季菜園→鹿戸  
尾根→大上園遊遊台（ロ  
ープウェイ）滝口湖（バス）  
→楡山・岩崎等（岩崎・バ  
ス）日野寺・実相寺  
（山形神代祭、日本一の  
古木・辰倉後バス）大井  
町（19時30分解散）

費用 約2000円（バス代・  
宿泊代等）  
地図 昭文社「16富士・富士  
五湖」

係 ◎渡部誠子  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

春の甲斐路に富士と桜と桃を見  
に行きます。歩きたい人には物足  
りないかも知れませんが、滋養寺  
のしだれ桜は、それは見事です。  
雨天決行

陸奥を歩く特  
選地山道西尾根ルート  
期日 4月12日 日曜日  
集合 河内線「河内国六」の手  
前（終止時刻）3時30分

コース 河内（車）今宿登山口→  
箕野→直江原宿→南郷  
原→雲梯山→高崎峰→岩  
ノ峰→西尾根林道→宮  
崎→あけん祭（解散）

費用 交通費各員  
地図 昭文社「14信濃・伊吹・  
信濃」

係 ◎宮野 明 ○山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

★マイカー山行

稲葉が咲き乱れる美濃河津の  
新ルートをとどり、原生林のよう  
な秘境を歩かせる原にくだりま  
す。\*稲葉は雨の日は咲きませ  
ん。前日の予報で降水確立的以外  
上のときは中止します。

地図 美濃山行  
東海自然歩道を歩く（5日）  
美濃山から渡津峠（一般向き）  
（新ハイキング関西まで）

期日 4月12日 日曜日  
集合 美濃河津バス停9時

コース 美濃河津→本見峠→坂山  
→小峠→山手峠→渡津峠  
→一般電ノ瀬駅（市バス）  
山手峠駅（解散）

費用 約1000円（大坂まで）  
地図 2万5千・京都府北部・  
岡山・大原

係 ◎塚元一彦 ○中村登  
申込み 〒536-0006  
大阪市城東区岡田4の14  
の9の30 塚元まで

美濃自然歩道シリーズパート5  
です。自然歩道から少し寄り道し  
て城山に登ります。地形図の読み  
方とコンパスの使い方を勉強しま

す。初心者を歓迎。シルバート型コ  
ンパスと指定の地形図を持参する  
こと。雨天中止

京野北山歩き6  
京都西山・大原山と小塩山  
（一般向き）

期日 4月14日 日曜日  
集合 阪急桂木駅改札口9時

コース 桂木（バス）洛西高校前  
→大原山→小塩山→正法  
寺→大原野神社→洛西高  
校前（解散）

費用 約1000円（大坂まで）  
地図 昭文社「4都府西山」  
係 ◎宮西光男  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

カタクリの花を求めてのんびり  
と歩きます。小雨決行

美濃・三ツ峠と鍋倉山  
（一般向き）  
期日 4月19日 日曜日  
集合 近鉄大津線磯原駅9時

コース 磯原駅（バス）高井バス  
停→仏隆寺→蓮戸峠→カ  
ラト山→渡津→三郎ヶ岳

一畑山→林平→仏隆寺  
→高井バス停（バス）接  
原駅（解散15時30分頃）

費用 約4000円（大坂まで）  
地図 昭文社「58赤白・信濃  
信濃」  
係 ◎村田賢俊 ○則定保夫  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田まで

仏隆寺のしだれ桜を見ながらの  
三郎ヶ岳と鍋倉山を巡回するコー  
スです。小雨決行

花の千ルン！  
鈴鹿・可憐な花の探訪  
高畑山から高畑止（他湖向き）

期日 4月19日 日曜日  
集合 佐日（南濃谷林道入口駐  
車場）8時

コース 南濃谷林道入口駐車場→  
高畑山→剛塔山→丸山→  
高畑山→高畑場（解散16  
時頃）

費用 交通費各員  
地図 昭文社「木村吉秀  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

★マイカー山行







145-1ノ瀬ユリ・種ノ水俣川  
船山11・15(夏)11・56一両谷  
林道終点13・00・15一両谷終点13・  
35-17ノ瀬ユリ展望所14・10・25  
17ノ瀬川15・40(解散)

種ノ水俣川附近では道行ほどの  
の積雪がある。行程の大半が雪  
景色で、シーズン初のスノーハイ  
クを楽しんだ。

- (参加者) 西田政雄 伊藤みはる  
石原君子 高田昌男 水見真砂子  
三浦 勇 津田 京 松本いつ子  
川崎敏子 尾瀬正男 砂原志美子  
中村英雄 中村 保 広田不孝子  
乙佐能雄 全光光男 森島紀美代  
松山みつ 大谷英子 中村佐代子  
向 真子 古川裕子 右近八重子  
岡田登治 内木良子 山本千鶴子  
竹原源郎 関野孝子 宮坂健彦  
神林武毅 中坊純代 喜田結菜  
深坂 真 深坂昌子 吉岡義枝  
○水島昌二 ○西下利和  
◎前中 毅 (計41名)

北山・三池岳から愛宕山  
(週末ハイク1)

12月6日(日) 晴れ  
J東京都駅8・20・8・30発(バ  
ス)山崎高橋バス停9・20一神護

寺9・40一林道山合10・40一菅  
地蔵11・35一愛宕神社12・20(昼  
食)13・20一池ヶ岳14・15一月輪  
寺15・35一梨ノ木谷山合16・10  
(解散) 滝橋バス停16・38(バス)  
京橋駅17・30

神護寺への石段でウォーキング  
アップの汗をかいた後、小春日  
和のなか無難な道へ。雪が積り積  
りに時間をとり、梨ノ木谷山合で解  
散し、京都駅行きのバスを利用す  
る人には急いでもらいました。

- (参加者) 森川信之 近藤 恭  
北野靖士 小田朋子 伊藤佳子  
三井敏一 岡田芳真 占部正成  
川崎敏子 金藤順子 砂原志美子  
松本康成 中村敬吾 前川和伸子  
浅田俊男 船越利明 船越みよ子  
十合裕子 吉田雄志 川上香代子  
中村 保 橋本 芳 木原英子子  
平塚英子 高田久子 小沢伊香子  
川中 保 関盛雄雄 高松邦子  
中田茂子 北方清重 細野敦也  
本岡俊次 佐野敏子 熊田千夜子  
井田幸子 井田敏一 上野加志江  
山岸隆雄 宮内節子 長谷川紀代  
青木一雄 青木敏子 吉岡義枝  
藤井敏子 岡田 昇 岡田恵美子  
伊藤 真 ○加藤文彦 (計56名)  
◎菅野康彦

12月7日(日) 曇り時々雨  
J京橋駅9・30一山合10・00  
一送電線終点10・25一東山11・00  
一山ノ峰12・00(解散) 12・30一  
林道12・55一J京橋駅13・50  
(解散)

雨が小休止している間に旗山か  
らササ原を過ぎてノコ杉まで行く  
ことができた。足が疲れていたの  
かコースタイム通り歩くことがで  
き、駅から帰る人、登山、樹木々  
岳(行く人三つ)に別れた。

- (参加者) 深坂 真 中村英雄  
西下利和 布施清夫 藤岡雅子  
瀬尾修香 古川裕子 網木美穂子  
藤井健造 ◎小田昌幸(計12名)  
湖北・山本山と愛宕山  
余興湖・鏡ヶ岳から山本山  
12月7日(日) 雨のち曇り  
J京橋駅9・00・20一六石山10・  
00一山本山15・00一山本山バス  
停15・45(バス) J京橋駅16・  
15(解散)

朝の小雨を午前中に上がり、  
旗ヶ岳では展望も開けた。山本山  
歩道は冬枯れの木立で我々を右  
に見ながら歩いた。コースはやや

長いが歩きやすい道だった。  
(参加者) 櫻田光子 藤田 晃  
近藤孝子 築山信夫 東 美穂子  
松本 博 木原英夫 渡名野孝子  
岩田博士 川崎敏子 寺中慶子  
金藤順子 渡辺隆郎 井本孝男  
木高 隆 森島昌二 中野代子  
林 佳弘 林 妙子 血染清男  
血染智子 若木一 白鳥清子  
辻 行子 川上久盛 吉田ソノ子  
辻村英夫 菅見守成 渡辺千恵子  
高田昌男 高木 晋 井林孝孝子  
三井敏一 岡 朋子 佐藤新一  
佐藤敏子 木原光江 梶月廣幸  
秋元敏子 田中博幸 大橋亮哉  
池水 保 鈴木吉和 岩本いさ  
林 陽子 高田敏子 奥比佐夫  
堀谷健子 瀬尾修香 若原初子  
杉村英代 武部 剛 武部美英子  
能登三恵 池 知浩 池 れい子  
岩崎孝子 野母孝子 堅田美穂子  
岡田定夫 高木 浩 高木みつ子  
林 全子 瀬田昌子 橋本孝久夫  
○安倉正隆 ◎村田智俊(計67名)

旗山・三池岳(三池の山35)  
12月7日(日) 雨  
近鉄湯の山温泉駅前9・10(車)  
切通駅前9・45一八風峠11・15  
(昼食) 12・00一三池岳12・20一

25一お菊池12・40一射撃場13・50  
一14・00一近鉄湯の山温泉駅14・  
30(解散)

八風峠で雨上がる。三池岳でカ  
ス消え雲切れ展望が開ける。旗山  
のなかにお菊池コースをくぐる。  
池は結氷し、カスが動き始める。  
下山してふりかぶる三池岳は雲の  
なか。雨の日は雨の良さがある。  
そんな山行でした。

- (参加者) 今岡民代 平 龍一  
平 孝子 左海津一 河原慶岡  
木村好和 真田明子 森 美香子  
荒井寛子 和田真智 石田真由美  
井上久子 高橋正人 藤井みつみ  
○浦田澄夫 ◎藤崎英五 計15名

イブキ・イワノス・比婆山  
(峠道を歩く30)

12月7日(日) 曇り  
河内藤原駅前9・05一後谷9・  
50一イブキ10・30一イワノス11・10  
一比婆山11・40一比婆山11・50  
(昼食) 12・40一比婆山12・50一  
甲斐谷13・45一河内藤原14・30一河  
内藤原14・45一藤原駅前15・30  
(解散)

昨夜の雨も止み、山はガス捲っ  
ていた。10時ほどの積雪を踏んで  
登る。白い大の玉の雲を巻くイ

ワスに着くと湖半平野と岳頂は  
低い霧のなか広かっただけ。比  
婆山では頭大の雪に下出会ひ、  
くだりの足根では積雪と人が追い  
越して行った。後をついてと大が  
吠えだし、湖一頭が現れ左顔面に濡  
えた。向きの湖岸は霧をくぐって  
た。

- (参加者) 奥井孝生 高杉 博  
山田昌三 高橋 真 三木敏子  
池田隆彦 滝田繁英 ◎野母 明  
計15名

旗山・山本山と旗山  
(自然観察山行)  
12月13日(日) 14日(日) 晴れ  
(13日) 晴れ J京橋駅前11・  
00一正伝池12・00(反谷)12・40  
一三河野一山本山 山本聖徳寺前  
研修センター16・00(解散)

12月13日(日) 晴れ  
12月14日(日) 晴れ  
15・30(解散)

両日とも山頂に雲に取られ、山  
星山では道標や展望の見分け方  
を語りあいなげで登頂し、旗山で  
は道元自然観察会リーダーの案内

で、一日中雄木峰の自然と歴史を  
楽しんだ。宿ではスライドによる  
旗山行きの「山名・植物名クイズ」  
に挑戦した。

- (参加者) 藤田敏子 高田明子  
高木敏夫 田中健子 夏山孝子  
深坂 真 深坂昌子 安田昌子  
由田敏代 ◎高見守郎(計10名)

湖南アルプス(3年登山行)  
矢野ヶ岳と太神山  
12月13日(日) 晴れ  
J京橋駅9・30・8・35発(バ  
ス)アルプス登山口9・00一15一  
御前町9・40一60一矢野ヶ岳10・  
40一50一太神山登山道分岐11・  
40一50一アルプス登山口15・  
40一50(バス) 石山駅16・10(解  
散)

矢野ヶ岳は日だまりハイタ気分  
で難小のなかを登ったが、太神山  
道は雨に濡れられてカッとして登  
道をくぐった。曇りの日で登山会  
はあつた。大いに盛り上がった。

- (参加者) 森川信之 近藤 恭  
三井敏一 小林 佳 長谷川友彦  
本岡俊次 岡田芳真 加藤元孝  
松本 博 熊木秀雄 本橋高夫

